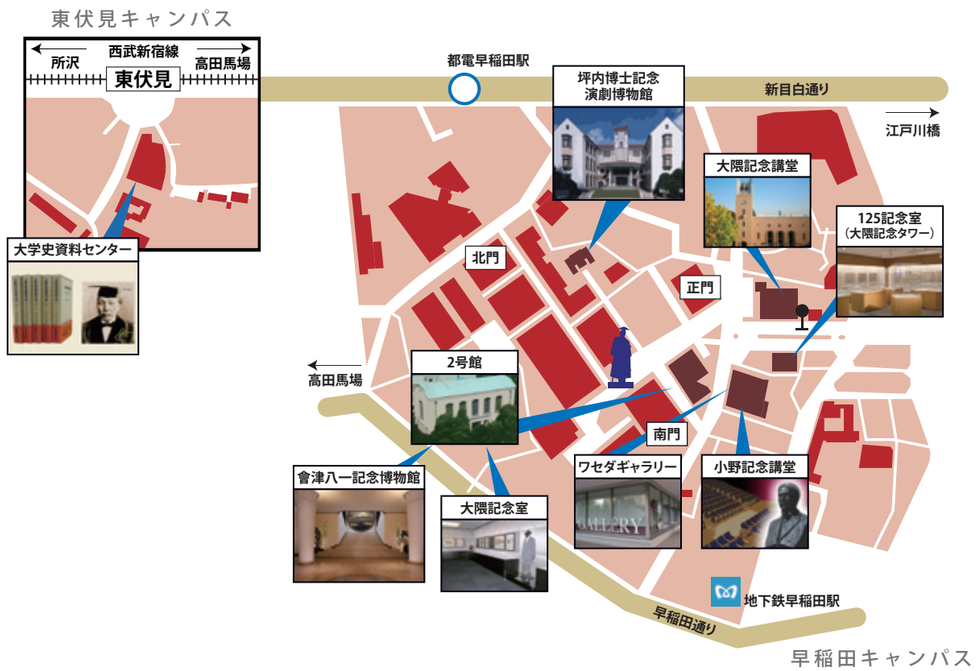
文化施設マップ・連絡先一覧

http://www.wasedabunka.jp/resource/



早稲田大学　文化推進部

文化企画課
Tel：03-5272-4783　Fax：03-5272-4784
http://www.wasedabunka.jp/　E-mail：art-culture@list.waseda.jp

坪内博士記念演劇博物館
Tel：03-5286-1829　Fax：03-5273-4398
http://www.waseda.jp/enpaku/　E-mail：enpaku@list.waseda.jp

會津八一記念博物館
Tel：03-5286-3835　Fax：03-5286-1812
http://www.waseda.jp/aizu/　E-mail：aizu@list.waseda.jp

大学史資料センター
Tel：042-451-1343　Fax：042-451-1347
http://www.waseda.jp/archives/　E-mail：archives@list.waseda.jp

早稲田大学　文化推進部年報　2013 年度版

2014 年 6 月 13 日発行　　発行人／十重田裕一　　企画・編集・発行／早稲田大学文化推進部

早稲田大学 文化推進部年報 2013

早稲田文化 2013

早稲田大学 文化推進部年報

Annual Report of Cultural Affairs Division, Waseda University

坪内博士記念演劇博物館　會津八一記念博物館

大学史資料センター　文化企画課

早稲田大学 **文化推進部年報** 2013

Contents

開催名称等による目次・・・01
ご挨拶・各機関の動き
文化推進部門総括理事・・05
文化推進部長・・06
坪内博士記念演劇博物館館長・・・07
會津八一記念博物館館長・・・08
大学史資料センター所長・・・09
文化事業（2013年度）
研究活動・教育活動・・10
展覧会・催し物・・14
出品・展示協力・・30
地域交流事業・・32
顕彰事業・・37
学術研究書出版制度・・38
刊行物・・・40
オリジナルグッズ・・・42
文化広報・・・44
文化施設・・・46
各種会議・・・49
人　事・・53
統　計・・54

文化施設マップ・連絡先一覧・・**裏表紙**

表紙絵画：**藪野　健**（早稲田大学栄誉フェロー、日本芸術院会員）

1. 研究活動・教育活動 10

演劇博物館……10

（研究活動）
・卓越した大学院拠点形成支援補助金
・特色ある共同研究拠点の整備の推進事業
（教育活動）
・教育学部の博物館実習科目への協力
・外国人研究者受入
・助成金による展示会

會津博物館……13

（研究活動）
・各種調査・研究結果の公開
・所蔵・寄贈資料の調査・研究
（教育活動）
・レクチャールームで行う博物館実習への支援
・文学学術院、教育・総合科学学術院、理工学術院等の授業の協力
・修学旅行、課外学習等見学者の受け入れ
・エクステンションセンター受講生等の受け入れ

大学史資料センター……13

（研究活動）
・早稲田大学百五十年史編纂
・大隈重信関係文書翻刻・編集プロジェクト：本学の所有する大隈重信関係書翰の翻刻
・比較大学史研究：高等教育研究をはじめとする比較大学史
・大学行政文書の管理保存体制：大学アーカイブズ機能
・所蔵・寄贈資料の調査研究
（教育活動）
・早稲田学：オープン教育センター設置科目
・わせだライフABC：新入生向け教育プログラム
・中・高校生への展示説明：修学旅行・課外見学者等の受け入れ
・学内外生涯教育への協力：エクステンションセンター他受け入れ

文化企画課……13

（教育活動）
・第16回おもしろ科学実験教室（軽井沢町・鴨川市）：理工学術院との共催
・美濃加茂市学生演劇公演：美濃加茂市で演劇ワークショップと学生の演劇公演を実施
・早稲田学生文化・芸術祭 2013：学生部との共催
・早稲田文化芸術週間 2013：大学箇所・教職員の文化発信を支援
・講堂設備技能判定会・初心者説明会：照明設備（大隈記念講堂・小野記念講堂）、音響設備（小野記念講堂）・・・詳細は48ページを参照

2. 展覧会・催し物 （●展覧会 ●催し物） 14

演劇博物館 （展覧会開催順）……14

○「佐野碩と世界演劇―日本・ロシア・メキシコ“芸術は民衆のものだ”―展」
・シンポジウム「佐野碩、演劇で世界に勝負を挑む！～日本からロシア・欧州へ、そして北米・南米へ～」
○現代演劇シリーズ第41弾「大学路1980's―韓国現代演劇とソウル展」
・演劇講座　リーディング公演「統一エクスプレス」　シンポジウム「韓国現代劇にとっての80年代と大学路」
○歌舞伎座新開場記念「六世中村歌右衛門展―思い出の名舞台」
・演劇講座「六世中村歌右衛門を語る」
○早稲田大学芸術功労者顕彰記念「ドナルド・キーン展」
・演劇講座「文楽と近松―異国で出会う学問と芸術―」
○「アジア演劇仮面展―館蔵コレクション」
○「郡司正勝展」
○「豊竹山城少掾展」
・演劇講座「豊竹山城少掾を語る」
○「新耽奇会展―奇想天外コレクション」
・演劇講座「曲亭馬琴、大沼枕山、三村竹清―近世、近代の好事家たちの集い」
○「いまだ知られざる寺山修司―わが時、その始まり」展
・演劇講座「いまだ知られざる寺山修司―ドキュメンタリーとフィクションのはざまから」
・演劇講座　鼎談「テラヤマシュージ・リローデッド！」
・演劇講座「ギャラリートーク」
・演劇講座　学生によるリーディング公演「毛皮のマリー」
●シェイクスピア祭 2013「太平洋に捧げるシェイクスピア」
●第76回逍遙祭「坪内ミキ子氏に聞く～坪内逍遙・坪内士行・宝塚歌劇～」

※演劇博物館では、企画展とそれに関連する演劇講座を一体として開催している。（○展示企画、「・」関連講座・シンポジウム）

會津博物館 （開催順）……21

○「動物たち」展（富岡重憲コレクション）
○「近世の禅画」展
○「紙にうつされた雲岡石窟―小川晴暘の雲岡石窟拓本―」
○「花岡萬舟　戦争画の相貌Ⅱ」展
○「青いやきもの」展
○「池部政次コレクションの中国明清の書画」
○「折帖」展（富岡重憲コレクション）
○「戸ノ内貝塚発掘調査成果報告」展
○「つちもの　縄文時代から江戸時代まで」展（富岡重憲コレクション）
●「四次元との対話―縄文と現代をつなぐもの―」

大学史資料センター （開催順）……24

○「ペンから剣へ―学徒出陣70年―」
○「2012年度 受贈資料展―資料が映す早稲田の今昔」
○『教旨制定 100年―「大正デモクラシー」期の早稲田』
○師走の東伏見芸術祭
●「早稲田と同志社―大隈と新島の出会い」
●「ペンから剣へ―学徒出陣70年―」展講演会

文化企画課　（開催順）……26
○美濃加茂市・早稲田大学 文化交流事業 共催展　「岡本一平」展
●早稲田狂言の夕べ 2013
●多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス&ワークショップ
●東京国際文芸フェスティバル
●早稲田学生文化・芸術祭 2013
●早稲田文化芸術週間 2013

3. 出品・展示協力　30

4. 地域交流　32

・東京都新宿区（文推・演博・文企）… 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業（文化庁）
「日本の伝統演劇体験講座」、「特別支援学校への出張講座」
来て・見て・楽しい　新宿フィールドミュージアム
近隣住民・商店会との連携
・静岡県熱海市（演博）…… 逍遙忌記念祭
・佐賀県佐賀市（大学史）…… 大隈祭
・埼玉県本庄市（文企）…… 展覧会等
・東京都中野区（文企）…… 早稲田大学交響楽団Maple Concert
阿刀田高　講演・朗読会
・千葉県鴨川市（文企）…… おもしろ科学実験教室
・長野県軽井沢町（文企）…… おもしろ科学実験教室
・岐阜県美濃加茂市（演博・文企）…… 坪内逍遙大賞、文化的企画の相互開催、学術資料の相互利用と研究、学生演劇公演等
・群馬県伊勢崎市（演博）…… アカデミックキャンプ

略称‥‥文推：文化推進部、文企：文化企画課、演博：演劇博物館、大学史：大学史資料センター

5. 顕彰事業　37

・早稲田大学坪内逍遙大賞（演博・文企）
・若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）
・梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）
・全国学芸科学コンクール（旺文社）

略称‥‥文企：文化企画課、演博：演劇博物館

6. 学術研究書出版制度　38

・早稲田大学モノグラフ
・早稲田大学学術叢書

7. 刊行物　40

8. オリジナルグッズ　42

9. 文化広報　44

・早稲田学報
・Waseda Online（ワセダオンライン）
・メールニュース（文企）
・新聞・テレビなどで取り上げられた主なもの
・早稲田大学文化資源情報ポータル

略称‥‥文企：文化企画課

10. 文化施設　46

・博物館、資料センターおよび文化施設の概要一覧
・文化施設の紹介、使用状況
・講堂設備技能判定会・初心者説明会

11. 各種会議　49

12. 人事　53

13. 統計　54

・各機関の主管施設の利用状況
・各機関文化事業および教育活動の実績総数
・各機関学内外出品・協力件数
・図書資料・AV資料の受け入れ状況
・2013年度　展覧会・催し物別　入場・参加人数

・文化施設マップ・連絡先一覧……**裏表紙**

ご挨拶

文化推進部門総括理事　藁谷　友紀
（教育・総合科学学術院教授）

早稲田文化の発信　文化推進部年報 2013 年度版の刊行にあたって

「早稲田文化の発信」とそれを通した「社会への貢献」の担い手を目指し、2007年に設置された文化推進部は、従来から独自に発展してきた演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターおよび文化企画課がそれぞれの役割を担いつつ、一方で早稲田における「文化の束」として一体となり、早稲田大学の文化推進諸事業を広く展開してきています。

また、早稲田大学では、国宝2件、重要文化財7件、重要美術品8件を含む美術品、書画、博物資料、図書資料、映像資料等、約500万点以上を所蔵しており、これら「早稲田文化」の資源の公開と活用に努めて参りました。

早稲田大学では、2032年の創立150周年に向けて中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、理想の大学像を打ち立てる各種プロジェクトを検討・実施しています。

このような状況の中で、文化推進部は二つの新たな独創的な事業に取り組む予定でいます。

一つは、「地域社会に開かれたキャンパスそのものをミュージアムにしよう」とする事業です。キャンパス内に存在する各種モニュメント等を実感し、絵画や彫刻の実物を学生・教職員・卒業生や地域の方々が身近に感じることができるキャンパスを目指すものです。二つ目は、「バーチャルミュージアムを実現し、世界に向けて文化発信をする」事業です。早稲田大学の文化資源のうちには、展示スペースの制約から収蔵庫等で保管されたままの資産が少なからずあります。この眠っている文化資産が、三次元の仮想空間を通して詳細な情報を伴い、私たちの目の前に表れ、同時に、先端技術を通して触れる、感じることができる「バーチャルミュージアム」の実現に取り組んでいます。これらの新たな取り組みと文化推進部三機関である演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの取り組みを一層発展させていくために、2014年度から「早稲田文化振興募金」の活動を開始いたします。この活動を通して、「早稲田文化」の発展、強化を強力に推し進めていきたいと考えています。

＊

「早稲田文化」は「スポーツ」や「科学」等の分野をも含み、学生、卒業生の活動・活躍も早稲田文化の重要な構成要素です。「早稲田文化」を大切にし、発信することによって、早稲田大学に対する親近感、大学の存在そのものに対する深い信頼感、また、早稲田大学に対する誇りの醸成に結びつけたいと考えます。同時に本学の校友だけではなく、広く社会一般の方々にも理解、共感を得て、早稲田文化を拡げて行きたいと考えています。社会における大学の存在意義は、何よりもまず教育・研究にあるのはもちろんですが、そこから生成される「文化」の力が大学と社会の結びつきをより強め、ひいては社会の豊かさに貢献する、そこに文化発信および大学と社会との交流の意味、さらには文化推進部の真にして無二の役割があると確信しております。

最後になりましたが、今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

ご挨拶

文化推進部長　十重田　裕一
（文学学術院教授）

文化推進部の動き（2013 年度）

本学文化推進部は、早稲田文化の魅力ある発信を目指して、2013年度も多種多様な文化事業等を実施して参りました。4月には、春の恒例行事となった、人間国宝・早稲田大学芸術功労者の野村万作様、ご子息の野村萬斎様による「早稲田狂言の夕べ」が大隈記念講堂で華やかに開催されました。6月には、学生が主体的に演劇・映画・音楽等の活動を企画運営する、「早稲田学生文化・芸術祭」が行われ、夏には、地域交流事業として長野県軽井沢町、千葉県鴨川市での「おもしろ科学実験教室」、岐阜県美濃加茂市での学生演劇公演を実施しました。そして、10月の創立記念日の前後には、大学の教職員や大学内各箇所が主催をする「早稲田文化芸術週間」を、11月には、中野区で今年4年目を迎える早稲田大学交響楽団のコンサートを開催致しました。また、2014年4月にエクステンションセンター中野校が開校することを記念して、早稲田大学芸術功労者の阿刀田高氏の講演会・朗読会等を中野区で実施しました。一方で、早稲田大学が創立150周年を迎える2032年の展望を描く、「Waseda Vision 150」の中で、新たな早稲田文化の発信として、地域連携事業を推進しており、大学の所在する新宿区や東伏見キャンパスのある西東京市での講演会、共催事業等新たな試みも積極的に行って参りました。

また、2013年度は、文芸を始めとする文化芸術活動において貢献された方を顕彰する早稲田大学坪内逍遙大賞の授賞の年であり、第4回を迎えた今回、文学界において目覚ましい活躍をされた小川洋子様に大賞を差し上げることができました。

一方で、文化推進部の関係三機関（演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター）も、例年にも増して活発な活動を行うとともに、特色のある取り組み等を展開しています。

演劇博物館では、様々なテーマのもと企画展を開催し、各企画展にあわせて講演会、ギャラリートーク等も行うことで多くの方々が来場されました。また、研究面においても、今年度も文部科学省より「卓越した大学院拠点形成支援補助金」が交付され、日本の演劇の拠点としての活動を展開しております。

會津八一記念博物館では、大学が所蔵する文化財・美術品を展示している常設展示や見応えのある陶磁や書画を集めた富岡重憲コレクション、また、企画展示に加えてのギャラリートーク等も実施し、好評を得ています。

大学史資料センターでは、本学の歴史に関する企画展示等を開催するとともに、「早稲田大学百五十年史」編纂委員会の活動も順調に進行しています。この他にも本年報には、文化推進部関係諸機関において行われた様々な文化活動の詳細を掲載していますので、ご参照ください。

早稲田大学では、大隈記念講堂、小野記念講堂、ワセダギャラリー、125記念室等を活用し、数多くの展示等を開催しており、文化推進部ホームページからの情報発信、メールニュース等で旬な情報の発信につとめています。また、大学には公開されていない多くの貴重資料等が収蔵されています。これらの貴重資料の収蔵環境を改善するとともに、インターネットを活用した「文化資源デジタルアーカイブズ」の整備を進め、その公開を目指しているところです。

今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

坪内博士記念演劇博物館

ご挨拶

坪内博士記念演劇博物館館長　岡室　美奈子
（文学学術院教授）

坪内博士記念演劇博物館（エンパク）の2013年度

8代目館長に就任してから、あっという間にほぼ1年が経った。演劇博物館は新米館長の下、みなさまのご支援とご協力のおかげで、2013年度も多彩な活動を行うことができた。この場を借りて篤く御礼申し上げる。

まずは2013年度の企画展を振り返っておきたい。まず5月から、2012年度早稲田大学芸術功労者顕彰記念「ドナルド・キーン展」を開催した。この展示ではキーン氏のご友人である早稲田大学出身の陶芸家・土屋典康氏の作品など、キーン氏自ら選んでくださった、早稲田大学、演劇、並びに当館にゆかりのある貴重な品々を関連所蔵品と併せて展示した。6月には「アジア演劇仮面展―館蔵コレクション」をオープンした。当館は中国・韓国・インド・インドネシアなどアジア各地の300点をこえる仮面を収蔵しているが、その中からアジア各地の伝統演劇で用いられる仮面約80点を厳選して展示し、カラフルで迫力ある仮面の魅力を堪能していただいた。7月からの「郡司正勝展」では、宮坂桂子氏よりご寄贈いただいた新収資料と文学部演劇映像コース室から移管された上演資料類の中から、民俗芸能調査ノート、歌舞伎の復活上演関係資料など、現場の息づかいを伝える資料群を展示した。

9月にオープンした「豊竹山城少掾展」では、明治から昭和中期の文楽で活躍した太夫、豊竹山城少掾（二世豊竹古靭太夫　1879 ～ 1967）の研究家的側面に光を当て、近年相次いで見つかった山城少掾旧蔵書籍や、研究者との学術的交流の様子を窺わせる書簡群、戦前の蔵書目録を書写したノートなどを中心に展示した。10月からは「新耽奇会展―奇想天外コレクション」を開催し、三村竹清が出品物を写生した記録帖『新耽奇漫録』（当館所蔵）を初公開したほか、「新耽奇会」の精神に倣っておよそ百万点に及ぶ演劇博物館所蔵品中の奇物を展示し、演博ならではの「奇」をお愉しみいただいた。また、映像の常設展もリニューアルし、幻燈の映像を常時上映するなど新たな試みも始めた。

2013年度の大きな出来事として、寺山修司の秘書兼マネージャーを務めておられた田中未知氏ご所蔵の膨大な寺山資料が演博に寄託されたことが挙げられる。この件は新聞各紙でも取り上げられた。11月には寄託を記念し、大隈記念タワーの125記念室において「いまだ知られざる寺山修司―わが時、その始まり」展を開催し、ギャラリートークやギャラリー・リーディング公演などの新しい試みも行い、いずれも超満員の盛況となった。

これらの展示と併せて、数多くの関連演劇講座を実施し、学内外から多くのお客様にお越しいただいた。2014年3月には、「今日もコロッケ、明日もコロッケ――益田太郎冠者喜劇の大正展」を開催し、関連イベントとして、卒業式当日に、黒色すみれさんに演博前舞台で歌声を披露していただいた。また、今回で10回目の節目となる「六世中村歌右衛門展――花と夢をわすれぬこと」を開催した。

研究・教育活動では、文部科学省より「共同利用・共同研究拠点」として認定された「演劇映像学連携研究拠点」（代表・竹本幹夫前館長）が事業最終年度を迎え、シンポジウムの開催など5年間の集大成とも言うべき活動が目白押しとなった。中でも、この活動の一環として東京国立近代美術館フィルムセンターで開催された「伝説の映画コレクション 早稲田大学演劇博物館所蔵フィルム特別上映会」は大きな反響を呼んだ。本拠点が、日本で最初の演劇・映像学の共同利用・研究拠点として大学の垣根を超えた共同研究の機会を提供したことの意義は大きく、本事業終了後も演劇映像学連携研究拠点を存続させ、国際的な演劇・映像学の発展に寄与していきたい。

また、昨年度に引き続き日本学術振興会より「卓越した大学院拠点形成支援補助金」の交付を受け、演劇・映像を専門的に研究する本学文学研究科博士課程在籍者をRA（リサーチ・アシスタント）として雇用して経済的支援や出張支援を行い、成果として論文集『演劇映像学2013』を発行した。科学研究費研究成果公開促進費の助成を受けている重点データベースも順調に件数を更新し、デジタル・アーカイブはますます充実しつつある。

地域貢献では、11月から12月にかけて、新宿区の文化振興を目的とする文化庁助成事業として「伝統演劇体験講座」を実施し、狂言の善竹十郎先生をはじめとする、そうそうたる先生方を講師としてお迎えし、児童や父兄、先生方に伝統芸能の面白さを味わっていただいた。今年度は新たに劇団みんわ座による写し絵のワークショップを行いご好評をいただいた。また、養護学校への出張講座も実施した。

2014年度から演劇博物館の展示は大きく変わる。これまでは毎年多くの企画展を開催してきたが、2014年度からは方針を刷新し、比較的規模の大きな展覧会を年2回、春季と秋季に開催して会期を長くする。また、古今東西の演劇映像資料を収蔵している演博の利点を活かし、領域横断的な展示を心がける。こうした転換によって、これまで以上に準備に時間をかけ、より見応えのある展示を目指す。演劇講座はもちろん、演劇博物館のフロントステージを利用した関連上演も積極的に行いたい。新しい企画展の第1弾として、4月22日から8月3日まで館長企画の「サミュエル・ベケット展――ドアはわからないくらいに開いている」を開催中である。

また、演博ホームページのリニューアルを行なった。新しいホームページでは、これまでのデジタル・アーカイブ・コレクションに加えて、演博の名品カタログもオンラインでご覧いただけるようになったほか、さまざまな工夫を凝らしている。ぜひ一度訪れてみていただきたい。

會津八一記念博物館

ご挨拶

會津八一記念博物館館長　塚原　史
（法学学術院教授）

「博物館」と「美術館」の綜合――會津八一記念博物館の動き（2013年度）

2013年度には、會津八一記念博物館はようやく創立15周年を迎えることができた。まず、このことを最初に報告させていただきたい。奈良美術史研究の先達で著名な歌人・書家であった早稲田の偉人のひとり會津八一が、早くも1926年に「実物尊重の学風」を強調して「学問をしてゆくに、実物を能く観察して、実物を離れずに、物の理法を観てゆくと云うことは、何よりも大切なことだ。早稲田には多くの学生がいるから、学生諸君がこういう点に理解をもたれると長い間に一大コレクションができる。新築の図書館と同じ位の大きさの博物館がわが学園の一隅に聳え立つ日の一日もすみやかならんことを祈る」（当館HP掲載、大橋一章先生「會津八一と博物館」による）と述べたことは周知のとおりだが、それから72年後の1998年、旧図書館（現2号館）の今井兼次設計による由緒ある建物内に開設された当館は、考古学・東洋美術・近代美術の3分野で総計20,000点近くの収蔵品を擁するにいたっている。これもひとえに館の存立と運営を支えて下さっている学内外の皆様の尊いご尽力のお蔭であり、この場を借りて厚く御礼申し上げる。

それでは、2013年度の主要な活動を挙げておこう。

【企画展】

5/20～7/6：「花岡萬舟　戦争画の相貌II」（日本近代美術）（この企画は2009年開催の花岡展第2弾で、あわせて当館所蔵の花岡萬舟全作品を公開することができた。）

9/24～11/9：「池部コレクションの中国明清の書画」（東洋美術）

11/15～1/18：「戸ノ内貝塚発掘調査報告」展（考古学）（戸ノ内貝塚は千葉県印西市の印旛沼北岸に所在する縄文時代遺跡で、早大考古学研究室では2004年～2010年まで計7次にわたり発掘調査を行い、縄文時代後期の大型土坑を多数検出したほか、印旛沼北岸では珍しい大型住居址を検出した。本企画ではその調査成果の展示である。）

【富岡重憲コレクション展示室】

3/1～4/20：「動物たち」展

5/7～6/29：「近世の禅画」展

7/5～9/21：「青いやきもの」展

9/30～11/16：「折帖」展

11/25～2/1：「つちもの　縄文時代から江戸時代まで」展（縄文時代の深鉢、平安時代の猿投の壺、鎌倉時代の古瀬戸の瓶子、室町から桃山時代の常滑・信楽・越前・丹波の壺、江戸時代の備前の壺まで、施釉されずに焼かれた壺を展示。とくに縄文土器は久しぶりに公開された。）

2014/3/1～4/19：「もてなしの器」

【特集展示】

3/1～4/27：「阿蘭陀人がやって来た！―富田万里子コレクションの陶磁器・古版画・古地図―」（2011年に校友で画家の富田万里子氏から寄贈を受けた近世の阿蘭陀関連資料を展示）

5/13～6/19：「紙にうつされた雲岡石窟―小川晴暘の雲岡石窟拓本―」

6/24～8/4：AIZU MASK FESTIVAL（本庄キャンパス考古資料館に収蔵されているパプアニューギニアの精霊仮面等を展示）

9/2～10/26：「学舎のおもかげ」

10/30～12/21：「延原・山内コレクション―茶の道具と風景画―」

2014/3/1～4/19：「會津博へのおくりもの」（新着コレクションの一部を特集展示した企画である。当館へ寄贈される貴重な美術品はその数を増しつつあるが、それらのための企画展の開催には相当の時間と準備を要するので、毎年年度末に常設展示室の壁面を利用して近着受贈作品の一部を公開している。）

上記の他、2013年10月26日には、早稲田大学文化芸術週間参加企画としてシンポジウム「四次元との対話―縄文と現代をつなぐもの―」を開催し、「縄文社会研究の最前線」（高橋龍三郎文学学術院教授）・「考古学と民族学」（中門亮太当館助手）・「縄文と現代をつなぐもの（岡本太郎再考）」（写真家浅井愼平氏・塚原）のテーマで報告・討論を行い（総合司会、川尻秋生当館副館長）好評であった。

ところで上述のとおり、当館の収蔵・展示・研究等の活動範囲は考古学と（東洋・近代）美術に大別されるので、英語表記ではAizu Museumでも「美術館」ではなくて「博物館」と称するのだが、Museum (Musée)の西欧近代以降の一般的語意は「歴史的（先史時代を含む）、美術的、技術的、科学的価値をもつ物品の保存と公開を目的とする施設」であり(Le Grand Robert による。現在では「情報データ」も保存・公開の対象に含まれるだろう)、欧米では多くの場合「美術館」と「博物館」には同一の語が用いられている。

こうした発想の前提となるのは、たとえばヘーゲルの次のような重要な指摘である。この偉大な哲学者は、『美学講義』第3部第1章「独立自在の象徴的建築」でこう述べていた――「芸術の第一の根源的な欲求は、精神から生じてくる観念や思想を人間の手で作りあげ、目の前に提示しようとする欲求です。〔…〕芸術はたんなる記号を利用するというにとどまらず、意味としての観念や思想に、それにふさわしい感覚的な形をあたえねばなりません」（長谷川宏訳、作品社）。

ごく要約的に言えば、ヘーゲルにとって「芸術」とは精神に「形を与える」行為のことなのだが、人間がまさに精神によって動物と区別される以上、先史時代を生きた人びとや今なお近代文明の辺境に生きる人びとが、日常生活の必要から、あるいは儀式や戦闘に用いるために作りだした偶像や武器、装飾品や祭礼品なども、彼らがみずからの精神に独自の形を与えた結果にほかならない。こう考えるなら、通常は考古・民族資料として「美術品」(Objets d'art)とは区別されるそうした考古・民族資料も、人類の精神的芸術的創造行為の成果とみなすことができるのであり、この意味では考古学と美術（美術史）を主要な構成部分とする当博物館も、美術館として側面をあわせ持っていると言ってよいだろう。今後とも、「博物館」と「美術館」のいっそう豊かな綜合をめざしたいものである。

大学史資料センター

ご挨拶

大学史資料センター所長　大日方　純夫
（文学学術院教授）

大学史資料センターの動き（2013年度）

大学史資料センターは、早稲田大学の歴史、創設者大隈重信および関係者の事績を明らかにし、これを将来に伝承するとともに、比較大学史研究を通じて、本学の発展に資することを目的としています。2009年度からは、オープン教育センター設置科目として「早稲田学」を開設し、大学教育の一環としての自校史教育を担っています。2010年度からは百五十年史編纂事業の中心事務を担当しています。

本センターは、1998年6月の発足時、本部キャンパス内の2号館（旧図書館）内に設置されましたが、2008年9月、本部キャンパスの外郭に位置する120号館（旧早稲田実業校舎）に移転し、ここで上記の業務にあたってきました。しかし、大学本部の施設利用上の理由から、2013年7月末をもって西東京市の東伏見キャンパスに移転しました（詳しい経緯については、『早稲田大学史記要』第45巻を参照）。

（1）資料の収集・整理と保存・公開

引き続き本学の文書および本学関係者に関する資料を整理し、保存・公開をすすめました。2013年度は、学徒出陣関係資料など23件の寄贈がありました。また、百五十年史編纂事業（後述）とも関連して、「写真データベース（戦後編）」の一部を公開しました。なお、狭隘を余儀なくされていた収蔵スペースは、移転により約1.7倍となりました。

（2）資料の閲覧・複写サービスとレファンス

従来120-4号館地階のレファレンスルームで所蔵資料の閲覧・複写サービスを行ってきていましたが、東伏見移転により利用者の利便性は少なからず低下しました。しかし、大隈会館棟からの高等教育に関する出版物・関係資料の移転・統合以来、深刻化していたスペース問題は基本的に解消され、レファレンスルーム内の閲覧スペースも拡張されました。資料の刊行物等への掲載希望は引き続き多くあり、その可否を判断しました。

（3）企画展示・講演会等の開催

①大隈記念室（2号館1階）：2007年10月にリニューアルした常設展示により、大隈重信の遺品類や厳選した資料を通して大隈の生涯を描き出しています。2013年度は、8月全日、冬休み、入試期間を除き開室し、16,000人を越える入場者がありました。

②春季企画展：卒業式・入学式を中心とする3月下旬から4月下旬に開催しており、2013年度は「ペンから剣へ―学徒出陣70年―」を、2013年3月25日から4月27日までの約1ヵ月間、會津八一記念博物館企画展示室で開催しました。各種メディアで取り上げられるなど大きな話題を呼び、通例の春季企画展の1.5倍近い3,500人を越える多くの入場者がありました。学生の関心も高く、企画展とあわせて開催した講演会では、校友で元海軍神風特別攻撃隊の江名武彦氏に「学徒出陣と特攻」と題して話していただき、会場の大隈記念講堂小講堂は329名の聴講者で満員となりました。さらに、2014年度に向け「世界への跳躍、限界への挑戦―早稲田スポーツの先駆者たちとその時代」を企画し、2014年3月24日から開催しました。

③受贈資料展：6月下旬から8月初めにかけ、前年度に校友・大学関係者から寄贈された資料の一部を展示するとともに、資料を通して本学のあゆみを紹介しています。2013年度は、6月21日から8月4日まで、「資料が映す早稲田の今昔」と題し、大隈記念タワー125記念室で開催しました。

④秋季企画展：ホーム・カミングデーと創立記念日の時期を中心に、本学の歴史に関する企画展を開催しています。2013年度は早稲田大学教旨制定100年を記念して、10月8日から11月4日まで、125記念室で「『大正デモクラシー』期の早稲田」展を開催しました。東伏見移転のため、展示準備作業は東伏見でおこない、自動車で展示物を早稲田キャンパスに運搬して、会場を設営する方法をとりました。

（4）出版・刊行事業

①『早稲田大学史記要』：年1回、発行しています。2013年度は、第45巻（A5判、348ページ）を発行し、また、Web（図書館運営の「早稲田大学リポジトリ」）でも公開しました。

②『大隈重信関係文書』：大隈重信宛の書翰6,000通余を解読・編集し、差出人別の50音順に収録・刊行しています。2004年10月の第1巻以来、毎年1巻ずつ刊行し、2013年度刊行の第10巻では、松平慶永5通、陸奥宗光41通、森有礼5通、矢野文雄127通、山県有朋15通など、約170名・800通を収録しました。東伏見移転によって調査・確認作業等に少なからず支障が生じましたが、何とか刊行にこぎつけました。全11巻は2014年度完結の予定です。これによって大隈をめぐる膨大な人的ネットワークと、多種多様な意思と情報の交差状況が浮き彫りにされることになります。また、電子書籍（紀伊国屋書店）として、2013年より配信中の第1～3巻につづき、2014年1月より第4～7巻の配信を開始しました。

（5）自校史教育の展開

①「早稲田学」：2013年度も、オープン教育センター設置科目として「早稲田学」を開講し、学生に対して「創設者大隈重信」（前期、登録者102名）と「近代史のなかの早稲田大学」（後期、登録者134名）を講義しました。また、オープン教育センターの夏季科目として、同志社大学・早稲田大学連携講座「同志社と早稲田を結ぶ―大隈重信と新島襄・八重夫妻―」（2013年度カレントトピック）の開設に協力し、講義等を担当しました。

②新入生向け教育プログラム：2012年度に引き続き、オンデマンド講義「わせだライフABC」のテーマ8「早稲田大学の歴史を学ぶ」を担当しました（受講者530名）。

（6）百五十年史編纂事業

大学史資料センターが事務を担当し、基礎作業をすすめています。2013年4月の編纂専門委員会での検討を踏まえ、7月開催の編纂委員会において、資料調査・収集、『百年史』編纂時収集資料の活用・公開、『百五十年史』編纂体制などについて協議しました。さらに、9月・11月の編纂専門委員会で、『百五十年史』編集・執筆体制、資料調査・収集、学内資料の公開、学徒出陣・戦争犠牲者調査などについて検討し、12月、「編纂専門委員会運営要領」と2015年度以降の編纂業務体制につき、編纂委員会の承認を得ました。

（7）共催・協力事業

東伏見キャンパスへの移転を機として、12月8日、社会連携推進室との共催で「東伏見芸術祭」を開催し、講演「早稲田と同志社―大隈と新島の出会い」を担当するとともに、『教旨制定 100年―「大正デモクラシー」期の早稲田』のパネル展示をおこないました。各地域・団体の要請に応える協力事業として、佐賀市大隈記念館の「大隈祭」（5月12日）、港区郷土資料館の講座（「大隈重信と芝公園にあった銅像」を担当）に講師を派遣しました。また、遠州稲門会・浜松市文化振興財団主催の早稲田フェスタin遠州2013企画展示「戦地に逝ったワセダのヒーロー―松井栄造の24年―」に協力しました。衆議院憲政記念館の平成25年度特別展「戦後日本の再出発」、東京都立中央図書館の企画展示「図書館資料が語るテレビ60年」、慶應義塾福澤研究センターの「慶應義塾の昭和十八年」展、佐賀市大隈記念館の平成25年度企画展「大隈家の女性たち～女子教育に注いだ熱き思い～」の開催に協力しました。

（8）学徒出陣・戦没者（戦争犠牲者）関係調査

2005年の春季企画展以来、早慶戦に焦点を当てながら戦争と学徒出陣の問題を扱ってきましたが、2013年はとくに前記企画展が大きな反響を呼びました。一方、秋にはNHKテレビや新聞報道などを契機に、学徒出陣に関し多くの情報が寄せられるようになりました。そこで、聞取り調査に本格的に取り組むこととしました。また、戦争犠牲者について、『百年史』で戦没者リストを公表し、その後、資料センター『記要』で修正・補遺を公表してきましたが、『百五十年史』編纂事業の一環として調査事業を本格化することとしました。

文化事業
2013年度　研究活動・教育活動

1. 演劇博物館

（1）研究活動

①卓越した大学院拠点形成支援補助金

事業の趣旨

本事業は、優れた研究基盤を活かし高度な教育と研究を融合する卓越した拠点を有する大学に対し、博士課程の学生が学修研究に専念する環境を整備するために必要な経費を支援し、もって、優秀な学生を惹きつけ、世界で活躍できる研究者を輩出する環境づくりを推進することを目的とする（文部科学省の実施要領より）。

事業の期間：2013年7月1日～2014年3月31日　　**交付額：**18,784,000円

組織

総長を申請者とし、演劇博物館館長を実施責任者とする、責任者を含む次の20名の実施担当者（全員が文学研究科研究指導担当教員で、それが文科省の条件となっている）によって運営される。

実施担当者一覧　20名

	講　師	専攻・コース
1	竹本　幹夫	文学研究科人文科学専攻　日本語日本文学コース
2	岡室　美奈子	文学研究科人文科学専攻　表象・メディア論コース
3	秋葉　裕一	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
4	岡崎　由美	文学研究科人文科学専攻　中国語中国文学コース
5	小松　弘	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
6	武田　潔	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
7	平林　宣和	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
8	藤井　慎太郎	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
9	丸本　隆	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
10	小田島　恒志	文学研究科人文科学専攻　英文学コース
11	貝澤　哉	文学研究科人文科学専攻　ロシア語ロシア文化コース
12	澤田　敬司	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
13	坂内　太	文学研究科人文科学専攻　表象・メディア論コース
14	十重田　裕一	文学研究科人文科学専攻　日本語日本文学コース
15	長谷　正人	文学研究科人文科学専攻　表象・メディア論コース
16	藤井　仁子	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
17	冬木　ひろみ	文学研究科人文科学専攻　英文学コース
18	水谷　八也	文学研究科人文科学専攻　英文学コース
19	和田　修	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース
20	児玉　竜一	文学研究科人文科学専攻　演劇映像学コース

事業内容

実施2年目を迎え、本年度が最終年度となるが、文部科学省の予算規模が大幅に縮小されたため、補助金も前年度の半額以下となった。しかしながら、事務局と十分な準備態勢を固めると共に、事前に複数回の実施担当者会議を開催して、有効な事業内容を計画することに努めた。担当者会議の審議の結果、以下の事業を実施することとした。

①RAの雇用について

対象学生には前年度に倣い演劇・映像に関わる勉学に専念出来る環境を確保するべく、財政的支援を行うとともに、演劇博物館の本館やその他の施設を利用可能とした。さらに、RA業務の報告として論文を提出することを義務付け、学内査読を経て2014年3月10日刊行の『演劇映像学2013』に掲載した。これらの条件を付して、演劇・映像・舞踊を研究対象とする博士後期課程学生を文学研究科において公募したところ、29名の応募があり、審査の結果、次の15名を採用した。

RA　2013年7月1日～2014年2月28日

	氏名	専攻	推薦者
1	イブラギモワ　エレーナ	20世紀初頭ロシア演劇、日露演劇総合影響	岡室　美奈子
2	内田　智子	フランス演劇	藤井　慎太郎
3	川﨑　佳哉	映画論	長谷　正人
4	木原　圭翔	映画理論	武田　潔
5	斎藤　慶子	バレエ史	伊東　一郎
6	佐藤　洋	映画史研究	小松　弘
7	渋井　君也	中国語中国文学	岡崎　由美
8	鈴木　啓文	映画理論	長谷　正人
9	關　智子	西洋演劇	藤井　慎太郎
10	谷口　紀枝	日本映画、無声映画、新派映画における物語発達研究	小松　弘
11	玉田　健太	映画理論研究	武田　潔
12	田村　奈穂子	英文学	小田島　恒志
13	辻　佐保子	アメリカン・ミュージカル、ミュージカル映画	岡室　美奈子
14	林　敬太	民俗学	藤井　明彦
15	山﨑　健太	表象・メディア論（サミュエル・ベケットの演劇・ラジオ・テレビ作品研究）	岡室　美奈子

②客員次席研究員の採用

RAの研究支援のために、以下研究員を採用した。

2013年10月1日～2014年3月31日

	氏名	研究分野
1	宮本　啓子	日本近現代演劇研究

③『演劇映像学2013』の刊行

実施担当者の中から各分野を代表する委員からなる編集委員会を設置した（委員長は武田潔教授）。委員会から委嘱された複数の査読委員による厳正なる審査の結果、15名のRA論文の中、査読を通過できた13編を掲載することとした。掲載論文はCD-ROM版を作成し、リポジトリ化をはかる。

	氏名	
1	イプラギモワ エレーナ	聖なる行為として メイエルホリド『堂々たるコキュ』（1922）の演出をめぐって
2	内田　智子	シャルル・デュランと仮面――東西の文化圏とその先を目指して――
3	川﨑　佳哉	スクリーンのさらに奥へのまなざし ――アンドレ・バザンによるオーソン・ウェルズ論――
4	木原　圭翔	『おくさまは 18 歳』における変容の論理 ――テレビドラマの形態に関する一考察――
5	斎藤　慶子	ソ連時代の民族バレエのコンテクストにおける『まりも』
6	佐藤　洋	「京都記録映画を見る会」について――その前史――
7	渋井　君也	清代の『紅楼夢』戯曲作家と戯曲創作
8	關　智子	「謎」による読者の能動性の喚起 ――ポストドラマ的テクストにおける特異性の分析の試み――
9	谷口　紀枝	各社競作『毒草』にみる大正六年の日本映画界 ――連鎖劇の流行と日活向島撮影所――
10	玉田　健太	モデルの誕生――『忘れじの面影』における嘘と自意識について――
11	田村　奈穂子	フレインの戯曲における「世界」の源泉
12	辻　佐保子	The Presence of Physicality Indicated through Skew Lines of the Narrative and the Form: The Analysis of Fade Out-Fade In
13	山﨑　健太	反復する死、あるいは生――サミュエル・ベケット『ロッカバイ』試論――

④出張費補助

世界で活躍できる研究者を輩出する環境づくりを推進するため以下、のべ9名の出張を補助した。

	氏名	期間	出張先
1	關　智子	7月20日～7月28日	スペイン
2	辻　佐保子	7月20日～7月28日	スペイン
3	佐藤　洋	2014年3月14日～2014年3月18日	大阪・京都・兵庫
4	辻　佐保子	2014年3月7日～2014年3月14日	アメリカ
5	關　智子	2014年3月7日～2014年3月14日	イギリス

	氏名	期間	出張先
6	渋井　君也	2014年3月9日～2014年3月20日	中国
7	川﨑　佳哉	2014年3月9日～2014年3月16日	アメリカ
8	林　敬太	2014年3月8日～2014年3月15日	ドイツ
9	木原　圭翔	2014年3月12日～2014年3月19日	イギリス

⑤招聘事業

イタリア（ローマ）在住の多木陽介氏を講師に、2014年2月5日～7日・10日の4日間にわたり、「アキッレ・カスティリオーニによる誘導の科学――演劇資料の展示空間デザインに見るコミュニケーション技術」と題した講義を行っていただいたほか、演劇資料のプレゼンテーションの方法を指導していただいた。

⑥スタッフ雇用

本補助金業務専従スタッフとして、9月2日付で山本直美氏、12月1日付で福井由紀子氏を雇用した。

⑦資料購入、消耗品購入

拠点設備充実のための参考図書類、古典籍類を中心に購入した。

今年度の補助金は予算規模の縮小の影響をうけての活動であることから、演劇博物館の通常業務を行いながらの活動となった一面がある。事業目的を推進しての業務は多忙を極めたが、優秀な人材を集めることが出来たのは、何よりの成果である。なお、本補助金の公募は2013年度が最終活動年度であり、今後の研究者育成に係る補助金の設置を、大いに期待するものである。

②特色ある共同研究拠点の整備の推進事業

A.「演劇映像学連携研究拠点」※括弧内は研究代表者

（1）テーマ研究　9課題

・日本における中国古典演劇の受容と研究（岡崎由美）
・台本による歌舞伎作品復元の調査・研究（古井戸秀夫）
・舞台芸術　創造とその環境　日本／世界（藤井慎太郎）
・演劇博物館所蔵映画フィルムの調査、目録整備と保存活用（入江良郎）
・日本映画、その史的社会的諸相の研究（古賀太）
・演劇研究基盤整備：舞台芸術文献の翻訳と公開（秋葉裕一）
・能・崑劇の比較研究　―日中伝統演劇の現在と未来（佐藤信）
・伎楽面の総合的研究及び復元模刻制作（藪内佐斗司）
・寺山修司の創作――次資料から明らかにする活動実態―（岡室美奈子）

（2）公募研究（1年間）　9課題

・「本朝話者系図」の基礎的研究（今岡謙太郎）
・東西演劇交流におけるメディア・記憶・アーカイヴをめぐる研究（上田洋子）
・吉田文庫所蔵資料悉皆調査と近代能楽研究史の解明（江口文恵）
・『ポルティチの唖娘』の復元をめぐるブルーバード映画の多角的研究（小川佐和子）
・人形浄瑠璃の現有曲目に関する資料学的研究―淡路・阿波・大阪の伝承を中心に―（神津武男）
・映像からみる戦前戦後の宝塚歌劇―日比谷宝塚劇場映像（1935）とGHQ撮影映像（1946）を巡る考察―（児玉竜一）
・上山草人資料を活用した日米露の比較映画史研究（羽鳥隆英）
・19～20世紀アジアの舞台娯楽における西洋演劇の影響に関する研究―日本宝塚歌劇・中国越劇・台湾歌舞劇―（細井尚子）
・昭和期日本における幻灯（スライド）の復興と再発展―「教育」と「運動」のメディアとしての製作・流通・運用に関する実証的研究を中心に―（鷲谷花）

B. 演劇映像学連携研究拠点主催　公開講座

開催日・会場	タイトル	講　師
11月2日（土） 14:00～16:20 国立近代美術館フィルムセンター大ホール	研究講演会 「早稲田大学演劇博物館の映画コレクション」	竹本幹夫（早稲田大学文学学術院教授）、入江良郎（フィルムセンター主任研究員）、上田学（日本学術振興会特別研究員PD）、児玉竜一（早稲田大学文学学術院教授）、板倉史明（神戸大学大学院国際文化学研究科准教授）、岡田秀則（フィルムセンター主任研究員）、金子健（文化庁文化財部伝統文化課芸能部門文部科学技官）
2014年1月10日（金） 15:00～19:00 早稲田大学小野講堂	≪翻訳プロジェクト≫ シンポジウム	鴻英良（演劇批評家）、里見実（國學院大学名誉教授）、松井憲太郎（キラリ☆ふじみ館長）、平林宣和（早稲田大学准教授）、秋葉裕一（早稲田大学教授）、谷川道子（東京外国語大学名誉教授）、塚原史（早稲田大学教授・會津八一記念博物館館長）

（シンポジウムを含め総数 90 件）

（2）教育活動

①教育学部の博物館実習科目への協力（7単位）

博物館展示論Ａ　永井美和子　春期（半期 週1コマ15回）2単位
博物館展示論Ｂ　永井美和子　秋期（半期 週1コマ15回）2単位
博物館実習Ｂ　永井美和子　通年（週3時間30回）3単位

②外国人研究者受入

a.交換研究員

石静遠（エール大学教授）　5月15日～8月15日
マシュー・ウェイン・ショアーズ（ハワイ大学 マノア校・博士候補生）　2013年9月20日～2014年8月31日

③助成金による展示会

演劇博物館では以下の外部団体より助成金を受け、展示会事業を展開いたしました。

1）新耽奇会展－奇想天外コレクション
【期間】10月15日～11月30日
【助成団体】日本芸術文化振興会
【助成金】1,400,000円
【助成対象事業名】「新耽奇会展－奇想天外コレクション」（「地域の文化の振興等活動（美術館等展示活動）」事業）

文化事業
2013年度　研究活動・教育活動

2. 會津博物館

(1) 研究活動

①上代東アジアにおける塑像の研究
②近代日本美術における沖縄イメージの形成についての研究
③土器の型式変化と分布に関する民族考古学的研究

(2) 教育活動

①レクチャールームで行う博物館実習への支援
②文学学術院、教育・総合科学学術院、理工学術院等の授業の補完
③修学旅行、課外学習等見学者の受け入れ
④エクステンションセンター受講生等の受け入れ

3. 大学史資料センター

(1) 研究活動

①早稲田大学百五十年史編纂
②大隈重信関係文書翻刻・編集プロジェクト：本学の所有する大隈重信関係書翰の翻刻
③比較大学史研究：高等教育研究をはじめとする比較大学史
④大学行政文書の管理保存体制：大学アーカイブズ機能
⑤所蔵・寄贈資料の調査研究

(2) 教育活動

①早稲田学：オープン教育センター設置科目
②わせだライフ ABC：新入生向け教育プログラム
③中・高校生への展示説明：修学旅行・課外見学者等の受け入れ
④学内外生涯教育への協力：エクステンションセンター他受け入れ

4. 文化企画課

(1) 教育活動

①第 16 回おもしろ科学実験教室 (軽井沢町・鴨川市)：理工学術院との共催
②美濃加茂市学生演劇公演：美濃加茂市で演劇ワークショップと学生の演劇公演を実施
③早稲田学生文化・芸術祭 2013：学生部との共催
④早稲田文化芸術週間 2013：大学箇所・教職員および学生登録団体の文化発信を支援
⑤講堂設備技能判定会・初心者説明会：照明設備 (大隈記念講堂・小野記念講堂)、音響設備 (小野記念講堂)・・・詳細は 48 ページを参照

文化事業
2013年度　展覧会・催し物

展覧会　**演劇博物館**

「佐野碩と世界演劇 —日本・ロシア・メキシコ“芸術は民衆のものだ”—展」

会期 3月1日（金）～5月22日（水）
会場 演劇博物館2F　企画展示室Ⅰ
主催 演劇博物館

20世紀前半に世界各国で活躍した日本人演出家佐野碩（さの・せき）の生涯と演劇活動を紹介した。会場では、日本時代の上演パンフレットやポスター、舞台装置図のほか、佐野が滞在したロシア、メキシコの研究機関が所蔵する舞台写真を展示して、世界的な演劇潮流のなかに佐野を位置づけて示した。また自筆原稿や遺愛品、演出風景を撮影した映像、関係者へのインタビューなどの初公開資料によって、佐野の新たな側面に光を当てた。

関連シンポジウム

シンポジウム　**演劇博物館**

佐野碩と世界演劇展　関連シンポジウム
「佐野碩、演劇で世界に勝負を挑む！～日本からロシア・欧州へ、そして北米・南米へ～」

日時 3月1日（金）～3日（日）　**会場** 1日：小野記念講堂　2日・3日：8号館B101教室
主催 1日：演劇博物館　2日、3日：演劇映像学連携研究拠点
講師

3月1日（金）「佐野碩再考」
藤田富士男（『ピパ！エル・テアトロ！』著者、近代日本演劇）
菅孝行（『自由人佐野碩の生涯』協力者、演劇評論家）
田中道子（エル・コレヒオ・デ・メヒコ教授、日本史）
吉川恵美子（上智大学教授、スペイン・ラテンアメリカ演劇史）

3月2日（土）「日本からロシアへ　左翼演劇の可能性を求めて」
加藤哲郎（一橋大学名誉教授・早稲田大学客員教授、政治学）
萩原健（明治大学准教授、ドイツ演劇）
伊藤愉（一橋大学博士課程、ロシア演劇）
ナターリア・マケーロワ（ロシア国立パフルーシン中央演劇博物館メイエルホリドの家博物館館長）
桑野隆（早稲田大学教授）

3月3日（日）「メキシコの佐野碩」
田中道子（エル・コレヒオ・デ・メヒコ教授、日本史）
スサナ・ウェイン（演出家）
ホビータ・ミアン（メキシコ国立芸術センターロドルフオ・ウシグリ演劇研究所所員）
ギエルミーナ・フエンテス（メキシコ国立芸術センターロドルフオ・ウシグリ演劇研究所所員）

世界的な演出家佐野碩を再考するシンポジウムを3日間にわたり開催した。内容は、佐野碩を現在検討する意義についての討論会と、ロシア及びメキシコでの演劇活動についての研究報告会。海外から研究者を招聘した、国際的な催しとなった。

※独立行政法人国際交流基金平成24年度知的交流会議助成プログラム助成対象事業・文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」（演劇映像学連携研究拠点）平成24年度研究成果

展覧会　**演劇博物館**

現代演劇シリーズ第41弾
「大学路1980's—韓国現代演劇とソウル展」

会期 3月1日（金）～8月4日（日）
会場 演劇博物館3F　現代コーナー
主催 演劇博物館
共催 日韓演劇交流センター

連続企画展示・現代演劇シリーズ第41弾。1980年代を韓国現代演劇史の一大転換点と捉え、その変容をソウル市の演劇街「大学路」を中心に紹介した。会場には現地のポスターや舞台写真、舞台映像のほか、大学路を象徴するチケット小屋や案内板の模型が展示された。日本ではほとんど知られていない韓国現代演劇史を採り上げ、日韓の演劇交流が活発化している現状を見通す新しい視座を提供した。

関連演劇講座

講演　演劇博物館

現代演劇シリーズ第41弾 大学路1980's―韓国現代演劇とソウル展　関連演劇講座

リーディング公演「統一エクスプレス」
シンポジウム「韓国現代劇にとっての80年代と大学路」

日時　7月9日（火）14:00〜16:00
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館
共催　日韓演劇交流センター
パネラー　呉泰栄、金錫満、金明坤、西堂行人
司会　津川泉

1980年代の韓国現代演劇について、戯曲『統一エクスプレス』のリーディング公演とシンポジウムを開催した。特にシンポジウムには、当時の韓国演劇界を代表する3人の演劇人が登壇し、実体験を交えながら、その歴史的意義について議論された。日本国内はもとより、韓国でもまだ取り上げられる機会の少ないテーマで両国の演劇研究上、貴重な機会となった。
※文化庁芸術団体人材育成支援事業

展覧会　演劇博物館

歌舞伎座新開場記念

「六世中村歌右衛門展―思い出の名舞台」

会期　3月25日（月）〜4月25日（木）
会場　演劇博物館1F　六世中村歌右衛門記念特別展示室
主催　演劇博物館
協力　松竹株式会社、社団法人日本俳優協会

毎春恒例の六世中村歌右衛門展も9回目の開催となった。4月の歌舞伎座新開場を記念して、歌右衛門の歌舞伎座での名舞台を振り返った。戦火による焼失から昭和26年に再建した第4期歌舞伎座は、戦後歌舞伎復興の担手であった名女形歌右衛門のあゆみとともにあった。昭和初期から近年にいたるまでの歌舞伎座公演ポスター、筋書、プログラム、ブロマイドなどを展示。歌右衛門の名舞台と同時に、歌舞伎座という劇場に思いを馳せる機会にもなった。

関連演劇講座

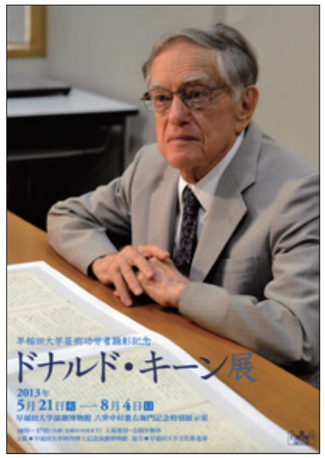
講演　演劇博物館

六世中村歌右衛門展―思い出の名舞台　関連演劇講座

「六世中村歌右衛門を語る」

日時　4月12日（金）14:45〜16:15
会場　大隈記念講堂小講堂
主催　演劇博物館
講師　加藤武（俳優、文学座代表）
六代目澤村田之助（歌舞伎俳優）
山川静夫（フリーアナウンサー、エッセイスト）
司会　児玉竜一（演劇博物館副館長）

昨年にひきつづき加藤武氏、山川静夫氏を迎え、お2人お得意の声色のご披露で幕開けとなった。加えて、前回、客席からご参加くださった六代目澤村田之助丈にも正式にご登壇いただいた。歌右衛門からの厳しくもあたたかい稽古、公演終了後の麻雀の日々など、舞台裏の秘話をお話しくださった。名優たちを相次いで失った歌舞伎界。役者、観客が一体となってさらに盛り立てようとの3人の言葉に会場全体から賛同の拍手が送られ、大盛況のうちに閉会となった。



展覧会　演劇博物館

早稲田大学芸術功労者顕彰記念

「ドナルド・キーン展」

会期　5月21日（火）〜8月4日（日）
会場　演劇博物館1F　六世中村歌右衛門記念特別展示室
主催　演劇博物館

2012年の9月に、早稲田大学芸術功労者としてドナルド・キーン氏が顕彰されたことを記念し、当館で展覧会を開催した。若き日に狂言で太郎冠者を演じた時の舞台写真や、コロンビア大学で博士号を得た近松門左衛門に関する論考、三島由紀夫の署名入りの献呈本など、ご秘蔵の資料を借用し、氏の多方面にわたる日本研究と交友の一端をご紹介した。

関連演劇講座

講演　演劇博物館

ドナルド・キーン展　関連演劇講座

「文楽と近松―異国で出会う学問と芸術―」

日時　7月17日（水）14:45〜16:15
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　演劇博物館
講師　ドナルド・キーン氏（早稲田大学名誉博士）
鳥越文蔵（早稲田大学名誉教授）
司会　児玉竜一（演劇博物館副館長）

長年に亘って親交の深い鳥越文蔵名誉教授と「文楽と近松―異国で出会う学問と芸術―」というタイトルで対談をしていただいた。本学関係者はもとより、熱心なキーンファンの方々が遠方からも駆けつけられ、平日の昼間にも関わらず大隈記念講堂はほぼ満席となった。

展覧会　演劇博物館

「アジア演劇仮面展―館蔵コレクション」

会期　6月7日（金）〜8月4日（日）
会場　演劇博物館2F　企画展示室Ⅰ
主催　演劇博物館

本企画展では、演劇博物館に所蔵されているアジア仮面総数300点以上から約80点を厳選し、戦前に制作された仮面をはじめとして、本来ならば儀式の終了に際して燃やされてしまうはずのもの（韓国海西タルチュム仮面など）、社会の動乱や迫害に耐えて伝承されてきたもの（中国貴州省端公戯仮面・糸操り人形など）のように、本国でもその存在自体非常に珍しいものを紹介した。

展覧会　演劇博物館

「郡司正勝展」

会期　2013年7月1日（月）～2014年2月5日（水）　主催　演劇博物館
会場　演劇博物館3F　近世常設展示室
〃　2F　廊下

本展覧会は戦後の歌舞伎研究に大きな足跡を残された郡司正勝本学名誉教授の生誕100年を記念して企画された。民俗芸能調査ノートや自筆原稿、句集・随筆集等を含めた御著書の数々、歌舞伎の復活上演関係資料などの展示を通じて、郡司先生の幅広い活動を偲んでいただいた。

展覧会　演劇博物館

「豊竹山城少掾展」

会期　9月21日（土）～12月21日（土）
会場　演劇博物館2F　企画展示室Ⅰ
主催　演劇博物館

近現代の人形浄瑠璃文楽史上、最も重要な演者の一人である豊竹山城少掾（二世豊竹古靭太夫）の業績を辿る本展では、近年相次いで発見され当館へ収蔵された新収資料を中心に、一般には知られていなかった山城少掾の浄瑠璃研究者としての側面に光を当てる展示を行った。人形浄瑠璃史（及び研究史）における「近代」の意味を問い直し、文楽の現在、未来について考える契機となった。

関連演劇講座

講演　演劇博物館

豊竹山城少掾展　関連演劇講座
「豊竹山城少掾を語る」

日時　12月16日（月）13:30～16:00
会場　大隈記念講堂小講堂
主催　演劇博物館
講師　渡辺保（演劇評論家）
内山美樹子（早稲田大学名誉教授）
司会　児玉竜一（演劇博物館副館長）

豊竹山城少掾展の関連講座「豊竹山城少掾を語る」では、『昭和の名人 豊竹山城少掾　魂をゆさぶる浄瑠璃』（新潮社）の著者であられる演劇評論家渡辺保氏と、浄瑠璃研究者で文楽劇評家としても御活躍される内山美樹子本学名誉教授を講師にお迎えし、山城少掾の芸の現代性やドラマ性、歴史的意義などについてお話いただいた。

文化事業
2013年度　展覧会・催し物

展覧会　演劇博物館

「新耽奇会展―奇想天外コレクション」

会期　10月15日（火）～11月30日（土）
会場　演劇博物館1F　六世中村歌右衛門記念特別展示室
主催　演劇博物館

本展は、三村竹清、内田魯庵、林若樹ら好事家たちが中心となって催した「新耽奇会」をとりあげ、昭和初期の多様な知の世界の一端を紹介した。第1部は、当館蔵の『新耽奇漫録』他、東京都立中央図書館と国立国会図書館の記録帳、加えて「新耽奇会」に実際に出品された器物も併せて展示した。第2部は、「エンパク耽奇会」と称して、館蔵コレクションのなかから、「新耽奇会」のメンバーならば、関心をもったであろう珍品奇物を並べた。

関連演劇講座

講演　演劇博物館

新耽奇会展―奇想天外コレクション　関連演劇講座
「曲亭馬琴、大沼枕山、三村竹清－近世、近代の好事家たちの集い」

日時　11月11日（月）14:45～16:15
会場　大隈記念講堂小講堂
主催　演劇博物館
講師　中野三敏（九州大学名誉教授）
ロバート キャンベル（東京大学大学院教授）
司会　児玉竜一（演劇博物館副館長）

中野先生による江戸時代のテーブルマジック「見附絵合」のご披露に始まり、つづいてキャンベル先生が、曲亭馬琴らが中心となって開いた「耽奇会」についてご講義くださった。後半は、「平成耽奇会」と称し、ご自身のコレクションから、「新耽奇会」のメンバーたちも珍しがるであろう奇品をお持ち寄りいただいた。先生方の考証に熱心に耳を傾ける会場は、さながら好事家の集いのようで、じつに印象的であった。

展覧会　演劇博物館

「いまだ知られざる寺山修司―わが時、その始まり」展

会期　2013年11月26日（火）～2014年1月25日（土）
会場　26号館（大隈記念タワー）10F　125記念室
主催　演劇博物館

寺山修司に関する膨大な量の資料が田中未知氏（元・寺山の秘書兼マネージャー）より寄託されたのを記念し、寺山の幼少期から劇団旗揚げまでの初期活動に焦点を当てた展示を開催した。自作スクラップや手稿、写真、書簡などを通して若き日の寺山の姿を浮き彫りにした。資料の大半が未公開のものであったり、普段なかなか見ることのできないドキュメンタリー番組などの映像を上映したため学内外から大きな反響を得ることができた。

関連演劇講座

講演　演劇博物館

いまだ知られざる寺山修司展　関連演劇講座
「いまだ知られざる寺山修司—ドキュメンタリーとフィクションのはざまから」

日時　10月27日（日）13:00〜18:00
会場　大隈記念講堂
主催　演劇博物館
共催　演劇映像学連携研究拠点

講師
<第1部>話し手　田中未知
聴き手　扇田昭彦（演劇評論家）
梅山いつき（早稲田大学非常勤講師）
<第3部>パネリスト　今野勉（テレビマンユニオン取締役・最高顧問）
秋山浩之（TBS ディレクター）
松井茂（東京藝術大学助教）
長谷正人（早稲田大学文学学術院教授）
岡室美奈子（演劇博物館館長）

本シンポジウムは3部構成から成り、第1部「田中未知氏に聞く——1970年代と寺山修司」では田中未知氏、扇田昭彦氏をお招きして寺山の人物像をめぐって議論し、第2部、第3部では寺山が手掛けたテレビドキュメンタリー番組を取り上げた。第2部ではTBSが制作した「中西太　背番号6」と「テレビドキュメント　あなたは……」を上映。それを受けて第3部では今野勉氏、秋山浩之氏、松井茂氏、長谷正人氏をお招きし、岡室美奈子館長の司会のもとパネルディスカッションを行った。

講演　演劇博物館

いまだ知られざる寺山修司展　関連演劇講座
鼎談「テラヤマシュージ・リローデッド！」

日時　12月11日（水）19:00〜20:30
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館
共催　演劇映像学連携研究拠点

今回の展示では寺山をリアルタイムに知らない若い世代にもそのおもしろさに触れていただくことをねらいのひとつとしていた。そこで現在、第一線で活躍されている劇作家・演出家・作家の宮沢章夫氏と、若い世代にとって指標となる批評を書かれておられる佐々木敦氏をお招きし、岡室美奈子館長の司会のもと鼎談を開催した。寺山作品を今日的なコンテクストのもとで読み替える斬新な意見が交換された。

講演　演劇博物館

いまだ知られざる寺山修司展　関連演劇講座
「ギャラリートーク」　話し手：田中未知

日時　12月3日（火）15:00〜16:00
12月12日（木）15:00〜16:00
会場　26号館（大隈記念タワー）10F　125記念室
主催　演劇博物館
共催　演劇映像学連携研究拠点

展示会場にて田中氏のギャラリートークを2回開催した。1回目は展示資料に触れながら寺山の短歌、俳句など言葉をめぐってお話しいただいた。2回目は視点を変え、1回目では触れなかった演劇作品について、特に後期作品や海外公演についてご講演いただいた。田中氏は秘書兼マネージャーとしてだけでなく、劇団では照明担当として創作現場の根幹に携わっていた方である。貴重な証言を聴こうと2回とも会場に入りきらないほどの聴衆が集まった。

関連演劇講座

講演　演劇博物館

いまだ知られざる寺山修司展　関連演劇講座
学生によるリーディング公演「毛皮のマリー」

日時　12月19日（木）18:00〜19:30
会場　26号館（大隈記念タワー）10F　125記念室
主催　演劇博物館
共催　演劇映像学連携研究拠点

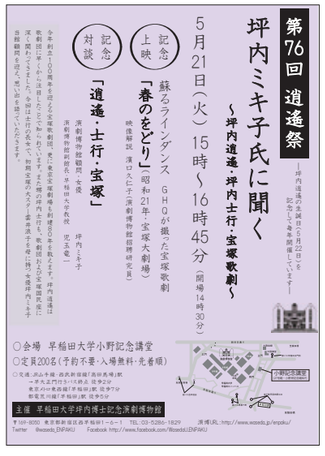
本学の学生による、寺山の初期代表作『毛皮のマリー』の朗読会を開催した。演出家の桐山知也氏をお招きし、文化構想学部表象・メディア論系幻影論ゼミの学生たちと共に約1ヶ月間作品分析や稽古を重ねた。展示室を会場にしたことで、あたかも作者・寺山に見守られているかのような雰囲気のなかで学生たちはのびのびと朗読した。

講演　演劇博物館

シェイクスピア祭 2013
「太平洋に捧げるシェイクスピア」

日時　4月24日（水）18:15〜19:45
会場　早稲田キャンパス6号館3F　318室（レクチャールーム）
主催　演劇博物館
講師　下館和巳（東北学院大学教授　シェイクスピア・カンパニー主宰）

シェイクピアの生誕を記念し、生誕日（4月23日）前後にシェイクスピアの研究者、所縁の俳優の方々などをお招きし、シェイクスピア祭と称して連綿と続いている演劇講座である。
2013年度は仙台市にあるシェイクスピア・カンパニー主宰で東北学院大学教授下館和巳先生から、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、震災の影響により活動中止を余儀なくされながらも、被災地の多くの人々から「公演を再開し、我々を元気づけてほしい」との声に押され、2012年5月に再活動するまでの様々なご苦労をお話しいただいた。



講演　演劇博物館

第 76 回逍遥祭
「坪内ミキ子氏に聞く〜坪内逍遥・坪内士行・宝塚歌劇〜」

日時　5月21日（火）15:00〜16:45
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館
講師　坪内ミキ子（女優・演劇博物館顧問）
聞き手　児玉竜一（演劇博物館副館長）

演劇博物館の創立者坪内逍遥博士の生誕を記念し、生誕日（5月22日）前後に逍遥祭と称し、毎年開催されているイベントである。
2013年度は、創立100周年を迎える宝塚歌劇団と、逍遥博士、逍遥博士の甥である坪内士行氏との関係を、士行氏および宝塚歌劇団草創期の生徒であった雲井浪子氏の長女である坪内ミキ子演劇博物館顧問と児玉竜一演劇博物館副館長が対談した。

展覧会　會津博物館

「動物たち」展

会期 3月1日（金）～4月20日（土）
会場 會津八一記念博物館1F　富岡重憲コレクション展示室
主催 會津八一記念博物館

馬、犬、虎、象、駱駝、鳥などに鳳凰、龍といった想像上の動物たちをも含めて動物たちがどのように作品に表現されているのかを楽しもうという展覧会。唐三彩の馬、豊干に手なずけられている虎を描く遂翁元盧の禅画、龍に飾られた清時代の豆彩の皿、鳳凰をあしらう堆朱の盆など、表現方法も時代も制作地もさまざまな作品を、動物を手がかりに鑑賞してみようと構成した。

展覧会　會津博物館

「近世の禅画」展

会期 5月7日（火）～6月29日（土）
会場 會津八一記念博物館1F　富岡重憲コレクション展示室
主催 會津八一記念博物館

江戸時代の禅僧たちは悟りの表象として、あるいは布教のためにいろいろな画を描いている。達磨や釈迦や観音図などの仏画のほか、祖師図、福神図、そして器物や動植物、風景画とその画題はさまざまである。なかでも白隠慧鶴や仙厓義梵はよく知られているが、本展覧会は白隠の弟子たち、仙厓と兄弟弟子の誠拙周樗、曹洞宗の風外本高のものを紹介した。

展覧会　會津博物館

「紙にうつされた雲岡石窟―小川晴暘の雲岡石窟拓本―」

会期 5月13日（月）～6月19日（水）
会場 會津八一記念博物館1F　常設展示室特集展示スペース
主催 會津八一記念博物館

拓本は石碑、瓦、器物などに刻まれた文字や文様を複写する方法の一つである。文字や文様が刻まれたものの上に紙を載せて、その上を少し湿気のあるタオルで強く押し付けると、圧力と湿気によって紙は文字や文様のあらゆる凹凸にまんべんなく食い込む。それから少し時間をおいて、紙の湿気が少し乾くのを見計って、タンポ（墨をつけて叩く道具）に墨をつけて紙の上を軽く叩くと拓本ができる。今回の特集展示では、写真家の小川晴暘が2度の雲岡石窟調査でとった拓本を展示した。

展覧会　會津博物館

「花岡萬舟　戦争画の相貌Ⅱ」展

会期 5月20日（月）～7月6日（土）
会場 會津八一記念博物館1F　企画展示室
主催 會津八一記念博物館

花岡萬舟は、満州事変や上海事変などに従軍し、戦場の風景を写し取った画家。当館では、2006年度に住野重樹氏より57点の花岡萬舟による戦争画作品の寄贈を受けた。多くの作品が著しく損耗していたが、2011年度に全ての修復を完了した。本展覧会では、これまで未公開であった作品を展示。戦争画を通じて、そこに描き出された近代日本社会や、その背景に存在していた思想や社会のありかたを、もう一度見つめ直した。

展覧会　會津博物館

「青いやきもの」展

会期 7月5日（金）～9月21日（土）
会場 會津八一記念博物館1F　富岡重憲コレクション展示室
主催 會津八一記念博物館

染付あるいは青花といわれる白磁胎にコバルト顔料で絵付けをし透明釉をかけた磁器、灰釉を還元炎で焼成した青磁の作品、そして青釉といわれる釉薬を施した陶磁器、いろいろな技法によるさまざまな青いやきものを展示した。とくに青花は中国元時代に完成されたといわれている技法で青と白の鮮やかな対比と釉下彩の堅牢さが多くの人々を魅了してきた。時代による変化とともに制作地による違いをも堪能できる展示構成とした。

展覧会　會津博物館

「池部政次コレクションの中国明清の書画」

会期 9月24日（火）～11月9日（土）
会場 會津八一記念博物館1F
企画展示室
主催 會津八一記念博物館

講師 ギャラリートーク
10月3日（木）：肥田路美　他33人
10月4日（金）：肥田路美　他25人、川尻秋生　他10人
10月5日（土）：小野佳代　他5人、山本さぎり（文教大学）　他25人
10月15日（火）：校友会 岡山県支部　他4人
11月6日（水）：下野玲子　他60人

池部政次氏は、清朝末期から中華民国への激動の時代に、北京の日本公使館書記官として活躍した。その様子は清朝最後の皇帝、宣統帝溥儀の自伝『我が前半生』にも記述されている。外交官として、溥儀の側近鄭孝胥、陳宝琛、羅振玉をはじめ、当時の政治家、軍人、文人とも親交があり、それらの人々から自筆の書画を贈られるとともに、池部氏自身も書画の蒐集に努めた。この企画展では、清朝末期から中華民国へとうつりかわる激動の時代に彼の地にて蒐集されたコレクションの精品と、蒐集者である池部政次氏の業績を紹介した。

展覧会　會津博物館

「折帖」展

会期　9月30日（月）～11月16日（土）
会場　會津八一記念博物館1F　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

折帖は厚紙を糊で継ぎながら折本状に仕立てたもの。旧富岡美術館のコレクションに含まれる折帖と呼ばれる装丁の3作品、手鑑「文彩」、手鑑「ちり蓮」、勝家伝来文書を展示。「文彩」は聖武天皇書と伝える紺紙銀字経から始まる手鑑、「ちり蓮」は古写経を集めた手鑑。勝家文書は勝海舟の建白書草稿、海舟宛の書簡のほか、江戸時代の文書なども貼り込まれている。

展覧会　會津博物館

平成の印旛手賀
「戸ノ内貝塚発掘調査成果報告」展

会期　2013年11月15日（金）～2014年1月18日（土）
会場　會津八一記念博物館1F　企画展示室
主催　會津八一記念博物館
協力　印西市教育委員会
印西市立印旛歴史民俗資料館
佐倉市教育委員会
早稲田大学文学部考古学研究室

千葉県印西市（旧印旛村）に所在する戸ノ内貝塚の出土資料を展示。早稲田大学文学部考古学研究室では、2004年3月の測量調査を皮切りに、2010年9月まで、計7次にわたり、戸ノ内貝塚の発掘調査を行ってきた。調査では、縄文時代後期の大型土坑を多数検出したほか、印旛沼北岸では珍しい大型住居跡を検出した。本企画展では、出土資料と調査風景写真、近隣遺跡の出土資料を通して、その歩みと調査成果を振り返った。

展覧会　會津博物館

「つちもの　縄文時代から江戸時代まで」展

会期　2013年11月25日（月）～2014年2月1日（土）
会場　會津八一記念博物館1F　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

茨城県出土といわれる4点の縄文時代の深鉢から、平安時代の猿投の壺、鎌倉時代の古瀬戸の瓶子、室町から桃山時代の常滑・信楽・越前・丹波の壺、江戸時代の備前の壺まで、施釉されずに焼かれた土器や壺の展覧会。桃山から江戸時代には、これらの窯で茶道具が作られており、備前の茶入、信楽の茶碗をあわせ、展示した。

シンポジウム　會津博物館

「四次元との対話―縄文と現代をつなぐもの ―」

日時　10月26日（土）13:00～17:00
会場　小野記念講堂
主催　會津八一記念博物館
講師・出演　浅井慎平（写真家・本学OB）
塚原史（會津八一記念博物館長）
高橋龍三郎（文学学術院教授）
中門亮太（會津八一記念博物館助手）

本シンポジウムでは「《縄文》との四次元の対話」をメインテーマとして、私たちの国の最古層の文化と現代が時空を超えて響きあう可能性を再考した。
第Ⅰ部では、縄文時代社会について、最新の研究成果を踏まえた報告をいただき、第Ⅱ部では、写真家の浅井慎平氏に《縄文》と現代との対話の可能性について、岡本太郎の写真（縄文、沖縄、東北）などにふれながら縦横に語っていただいた。第Ⅲ部では、出演者による自由な討論を行い、会場からの発言の機会も設定した。

展覧会　大学史資料センター

「ペンから剣へ―学徒出陣70年―」

会期　3月25日（月）～4月27日（土）
会場　會津八一記念博物館1F　企画展示室
主催　大学史資料センター

2013年はいわゆる学徒出陣から70年にあたる。太平洋戦争が敗色の様相をみせる1943年10月、学徒に認められていた徴兵猶予が停止された。これにより陸海軍へ入隊した学徒数は全国で9万、あるいは13万と言われ、早稲田大学からは4,500名を超す学徒が出陣した。今回の展示では、学業の半ばで陸海軍に入隊し、戦場に逝った5人を取り上げた。彼らの知性は戦争の時代といかに向き合い、格闘したのだろうか。彼らの軌跡を追うことから戦争の姿を改めて問い直した。

展覧会　大学史資料センター

「2012年度 受贈資料展―資料が映す早稲田の今昔」

会期　6月21日（金）～8月4日（日）
会場　26号館（大隈記念タワー）10F　125記念室
主催　大学史資料センター

昨年度（2012年度）、学内外から大学史資料センターに寄贈された貴重な資料の数々を展示した。ながきにわたって早稲田大学で教鞭をとり、また社会運動家・政治家としても活躍した安部磯雄に関する資料や、戦前の学内建造物を撮影した貴重な写真をはじめ、早稲田の今昔を映すバラエティーに富んだ資料を展示した。

展覧会　大学史資料センター

『教旨制定 100年—「大正デモクラシー」期の早稲田』

会期　10月8日(火)～11月4日(月)
会場　26号館（大隈記念タワー）10F　125記念室
主催　大学史資料センター

100年前の1913年10月、早稲田大学は創立30年祝典を挙行し、大隈重信総長は学問の独立、模範国民の造就をうたう早稲田大学教旨を宣言した。1910年代から1920年代にかけての時代は、「大正デモクラシー」という新しい時代の潮流の中で早稲田大学も新たな発展を模索した時代だった。本展ではこの教旨が制定された1913年から1920年代にかけての時期の早稲田大学の歴史を大学側、または教員や学生の側から見直し、今日に至る早稲田大学の歴史の一章をご覧いただいた。

展覧会・講演　大学史資料センター

師走の東伏見芸術祭

会期　12月8日(日)13:00～16:00
会場　79号館（東伏見STEP22）
主催　大学史資料センター・社会連携推進室

多摩六都マーチンチングバンドの演奏、アカペラ・ライブ、パネル展および講演会が開催され、パネル展と講演会を担当した。

パネル展『教旨制定 100年—「大正デモクラシー」期の早稲田』

講演「早稲田と同志社—大隈と新島の出会い」
講師　大日方純夫（大学史資料センター所長・文学学術院教授）

講演　大学史資料センター

「ペンから剣へ—学徒出陣 70年—」展講演会

日時　5月20日（月）14:45～16:15
会場　大隈記念講堂小講堂
主催　大学史資料センター
講師　江名武彦

江名武彦氏（校友・元海軍神風特別攻撃隊）より、基地の様子、出撃の様子、出撃を命ぜられた時の思いなどが語られた。

展覧会　文化企画課

—世態人情（せたいにんじょう）を描く—
美濃加茂市・早稲田大学 文化交流事業 共催展　「岡本一平」展

会期　4月12日(金)～5月31日(金)
会場　26号館（大隈記念タワー）10F　125記念室
主催　早稲田大学（文化推進部）・美濃加茂市民ミュージアム

本展は、早稲田大学と美濃加茂市の文化交流事業の一環として実施した展覧会である。巡回展として、美濃加茂市民ミュージアムでの開催に続き、本学の125記念室にて開催した。本展では、同ミュージアムや早稲田大学坪内博士記念演劇博物館などに収蔵される多数の漫画やその原画、肉筆画や漫俳資料、遺品などを展示し、美濃加茂市古井町を終焉の地とした漫画家・岡本一平の足跡を辿った。

公演　文化企画課

早稲田狂言の夕べ 2013

日時　4月16日（火）17:30~19:00
会場　大隈記念講堂大講堂
主催　文化推進部、総長室
協力　早稲田大学校友会
協賛　リーガロイヤルホテル東京

演目・演者
狂言「舟渡聟」（野村万作 他）
仕舞「清経」（山本順之）
狂言「茸」（野村萬斎 他）
解説　竹本幹夫（文学学術院教授/前演劇博物館館長）

本学校友で人間国宝の野村万作氏、推薦校友の野村萬斎氏他、豪華ゲストによる本格的な狂言公演。2010年度より毎年4月に、在学生、教職員、招待校友を対象に開催されている。今回は校友の山本順之氏による仕舞も加わった。大隈記念講堂でしか観られない一味違った舞台は大好評を博した。

公演・ワークショップ　文化企画課

多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ

日時　パフォーマンス「魔—時間の消えた島」
11月14日（木）18:30～20:30
ワークショップ「言葉と音楽　Vol.4」
11月15日（金）16:30～18:30
会場　小野記念講堂
主催　文化構想学部文芸ジャーナリズム論系、文化推進部
ゲスト　多和田葉子（作家）
高瀬アキ（ジャズピアニスト）
司会　松永美穂（文学学術院教授）

ベルリン在住の作家・多和田葉子のテキスト朗読と、ジャズピアニスト・高瀬アキの即興ピアノによるパフォーマンスとワークショップで、言葉と音楽のコラボレーションの可能性を探った。

パフォーマンス「魔—時間の消えた島」
トーマス・マンの「魔の山」をモチーフにした多和田葉子のオリジナルテキストを用いたパフォーマンス。地震・津波・原発事故を経て、気が遠くなるような放射性物質の半減期を知ったわたしたちは、自宅にいながら、これまでとは違う時間のなかに入れられてしまったのではないか。消えてしまった「いま・ここ」をめぐって、ユーモアを交えながらも鋭く投げかけられる問いは、観客に強い印象を残した。質疑応答では学生から活発な質問が寄せられた。

ワークショップ「言葉と音楽　Vol.4」
事前に指名された学生達が、多和田葉子「動物たちのバベル」（「すばる」2013年8月号）を使い自由にパフォーマンスし、高瀬が即興ピアノをつけた。両氏からの丁寧な講評があり、発表する側も見る側も、表現の新しい可能性を感じる機会となった。

文化事業
2013年度　展覧会・催し物

シンポジウム・講演　　文化企画課

東京国際文芸フェスティバル

日時 2014年3月2日（日）11:00〜18:40
2014年3月9日（日）15:30〜19:00

会場 小野記念講堂

主催 日本財団・東京国際文芸フェスティバル事務局

共催 文化推進部

協力 河出書房新社、白水社、新潮社 他

講師 柴田元幸
川上未映子
市川真人
ジェフリー・ユージェニデス 他

国内外からたくさんの作家、詩人、編集者、翻訳者らが講演やシンポジウムを通して、文芸の魅力を発信しているイベントである。今回は第2回目として、2014年2月28日〜3月9日に都内各所で開催された。早稲田大学会場のセッションについては文化推進部も共催とし、実施した。5つのトークセッションとクロージングイベントを行い、様々な側面から文芸活動を考えていくイベントを行った。

文化事業
早稲田学生文化・芸術祭 2013

会場・日時 大隈記念講堂：6月7日（金）〜16日（日）
小野記念講堂：6月13日（木）〜16日（日）
ワセダギャラリー：6月3日（月）〜16日（日）

早稲田学生文化・芸術祭は「学生団体の発表機会を増やし、早稲田の学生文化・芸術を発信・創造すること」を目的に2010年より毎年6月に開催されている。大学公認サークルの学生が主体となって企画立案し、各団体でイベントを実施している。学生部および文化推進部が主催となり学生をサポートしている。
2013年度は、23企画41団体が参加し、大隈記念講堂、小野記念講堂、ワセダギャラリーを会場とし、以下のイベントを実施した。
大隈記念講堂では、5日間に渡り学生サークル6団体が、各団体独自の単独企画を実施した。そして、最後の2日間は13企画14団体が参加し、複数の企画を行う「オムニバス公演」を実施した。なお、「オムニバス公演」では校友であるプロの舞台監督による協力のもと、早稲田大学放送研究会が照明・音響・映像等の演出を行った。小野記念講堂では、初年度から毎年行われている学生演劇の祭典「早稲田演劇週間」を開催した。7団体が参加し、4日間で延べ1,910名が来場した。ワセダギャラリーでは14日間にわたり、学生サークル4団体による展示が開催された。来場者はすべての会場をあわせて、延べ約5,000名と大盛況であった。

大隈記念講堂
単独企画（6団体）

日程	曜日	サークル名	内容	上演時間
6月7日	金	LUDO	お笑い	18:30〜20:00
6月8日	土	Choco Crunch & Street Corner Symphony	アカペラ	16:30〜18:30
		（小講堂）CINEMAX SIDEVARG	映画	12:00〜20:00
6月9日	日	早稲田大学交響楽団	演奏	13:30〜15:00
6月10日	月	POP3	お笑い	19:00〜20:30
6月11日	火	Waseda International Festival（W.I.F）	ダンス	18:00〜19:30

オムニバス公演　（14団体）
6月15日（土）

サークル名	内容	上演時間
オルケスタ・デ・タンゴ・ワセダ	演奏	11:00〜11:30
ハイソサエティ・オーケストラ	演奏	12:00〜12:30
エレクトーンサークル　AUGMENT	演奏	13:30〜14:30
津軽三味線愛好会　三津巴	演奏	15:00〜16:00
東京花火＆魁響	ダンス・演奏	16:30〜17:30
日本舞踊研究会	ダンス	18:00〜19:00

6月16日（日）

サークル名	内容	上演時間
下駄っぱーず	ダンス	11:00〜11:30
TAP-LOVERS	ダンス	11:40〜12:10
Waseda Salsa Party（わせサル）	ダンス	13:30〜14:00
ハワイ民族舞踊研究会	ダンス	14:10〜14:40
ジャズダンスサークル Oasis	ダンス	15:10〜15:40
早稲田大学ジャグリングサークル〜infinity〜	ジャグリング	15:50〜16:30
SHOCKERS	チアリーディング	16:55〜17:15

小野記念講堂　（7団体）　6月13日（木）〜16（日）

早稲田演劇週間	参加劇団：石榴の花が咲いてる。、劇団くるめるシアター、劇団森、コドモノチルドレン、西雲ゲリラ、デメリット、童話標本室

ワセダギャラリー　（4団体）　6月3日（月）〜16日（日）

サークル名	期間
絵画会	6月3日（月）〜6日（木）
早稲田スポーツ新聞会	6月8日（土）〜10日（月）
陶芸部稲穂窯	6月12日（水）〜14日（金）
生花研究会	6月15日（土）〜16日（日）

文化事業
早稲田文化芸術週間 2013

日時 10月14日(月)～10月30日(水)　**会場** 大隈記念講堂、小野記念講堂

早稲田文化芸術週間は、早稲田大学の学内各箇所の文化活動を社会に発信する目的で、2010年度より始まった。期間中は大学ならではの魅力的なイベントが、全て無料で実施された。なお、早稲田文化芸術週間は、2011年から開始された新宿フィールドミュージアム(新宿区主催の10月～11月に開催するイベント)にも参加している。

＜イベント＞

日	時	会場	内容	企画名	主催・共催	来場者数
10月8日(火)～11月4日(月)	10:00～18:00	125記念室	展示	「大正デモクラシー」期の早稲田	大学史資料センター	492
10月15日(火)～10月22日(火)	8:00～22:00	学生会館 2階アトリウム	展示	早稲田フォトコンテスト	学生生活課	—
10月14日(月)	17:00～19:00	大隈記念講堂大講堂	シンポジウム等	二代目桜川唯丸の夕べ in 都の西北 —ワールドミュージックと江州音頭 シンポジウムとライブ・踊りワークショップ—	教育・総合科学学術院 首都圏河内音頭推進協議会	100
10月18日(金)	16:30～18:00	大隈記念講堂小講堂	講演	人口・リプロダクティブヘルス・ジェンダー —産む性・育てる性と私の人生—	男女共同参画推進室 キャリアセンター ジェンダー研究所	160
10月21日(月)	9:00～22:00	早稲田 キャンパス内	その他	早稲田キャンパス・キャンパスガイド 手作りの早稲田名所案内	広報課	—
10月21日(月)	13:00～14:30	大隈記念講堂小講堂	シンポジウム	地域に根付く生涯学習 —中央線でつながる新宿と中野—	エクステンションセンター	120
10月21日(月)	15:00～16:30	小野記念講堂	講談	伝統芸能で語る大隈重信	文化企画課	30
10月21日(月)	16:30～18:00	大隈記念講堂小講堂	講演・上映	東日本大震災ドキュメンタリー 「きょうを守る」上演会・講演会	ボランティアセンター	50
10月21日(月)	18:00～19:30	大隈記念講堂大講堂	演奏	早稲田文化芸術週間 2013 創立記念日演奏会	文化企画課	336
10月24日(木)	16:30～18:00	大隈記念講堂小講堂	シンポジウム	『学生注目!社会が求める「学生市民」 —社会人0年目の私たちが考えること—』	ボランティアセンター公認 アトム通貨プロジェクト	50
10月24日(木)	18:30～20:30	小野記念講堂	講演	LIFE with ART Project：理論と実践の横断 「創造のためのアーカイヴ＆ アーカイヴからの読み替え」	演劇博物館	7
10月25日(金)	13:00～16:30					20
10月26日(土)	13:00～17:00	小野記念講堂	講演	四次元との対話—縄文と現代をつなぐもの—	會津八一記念博物館	70
10月27日(日)	13:00～18:00	大隈記念講堂大講堂	講演	いまだ知られざる寺山修司 —ドキュメンタリーとフィクションのはざまから	演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点	784
10月27日(日)	15:00～17:00	小野記念講堂	講演	鳩間×早稲田　共に考える島の未来 —2000キロ離れた東京から考える—	ボランティアセンター公認 離島交流プロジェクト	15
10月27日(日)	18:00～20:00	大隈記念講堂小講堂	対談	「東京・都市・音」　社会学と電子音楽の現場から 毛利嘉孝×若林幹夫×平本正宏	教育・総合科学学術院	55
10月29日(火)	13:00～17:00	小野記念講堂	講演	人結び、地域結び、森結び —震災後の地域文化の再生を考える—	環境総合研究センター　W-BRIDGE NPO法人国際環境経済研究所 ボランティアセンター	70

文化事業
2013 年度　出品・展示協力

【演劇博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
4月20日～6月9日	「井上ひさし展—21世紀の君たちに—」	神奈川県立神奈川近代文学館
5月31日～6月23日	「小説・戯曲を描く—中国木版年画」展	公益財団法人日中友好会館
6月1日～7月15日	「長谷川伸とふるさと横浜」展	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜にぎわい座
7月4日～10月27日	「東宝映画のスターたち」	鎌倉市川喜多映画記念館
8月1日～12月15日	「音楽と歩む～チャレンジした女性たちから チャレンジする女性たちへ～」展	独立行政法人国立女性教育会館
8月3日～8月18日	「わくわく特撮ランド」	特定営利活動法人調布シネマクラブ
9月14日～12月8日	「狐と谷崎、そして歌舞伎」	芦屋市立谷崎潤一郎記念館
10月5日～11月24日	「生誕140年記念　泉鏡花展—ものがたりの水脈—」	神奈川県立神奈川近代文学館
10月12日～11月24日	「北斎・広重・国芳 —浮世絵に見る東海道五十三次・桑名—」	桑名市博物館
10月25日～11月5日	KANZE HIDEO DAY　観世榮夫七回忌追善	大野一雄舞踏研究所
11月29日～12月11日	名誉市民森繁久彌生誕 100 年記念事業 「森繁久彌」展	枚方市地域振興部文化観光課
2014年1月16日～ 2014年1月19日	「武蔵野美術大学 平成 25 年度卒業・修了制作」展	武蔵野美術大学
2014年1月17日～ 2014年1月28日	「生誕百年記念　森繁久彌」展	読売新聞社
2014年2月8日～ 2014年3月21日	特別展「常陸南北朝史—そして、動乱の中世へ」	茨城県立歴史館

文化事業
2013年度　出品・展示協力

【會津博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
2013年4月1日～2014年3月31日	日比谷図書文化館 常設展示室第II室 出品	千代田区教育委員会
4月11日～7月20日	「かわいい!女子ワールド 松本かつぢと少女文化の源流」展	兵庫県立歴史博物館
10月5日～12月5日	「街の中の會津八一」―東日本編―	新潟市會津八一記念館
9月13日～11月24日	吉村作治のエジプトと古代文明展～太陽の船と七大文明～	RKB毎日放送
8月10日～9月29日	市島邸活用事業企画展「市島春城をめぐる人々 ―篆刻作品と河村清雄「ベニスの風景」」	新発田市観光振興課
10月26日～12月13日	茶の湯の心～早稲田大学會津八一記念博物館所蔵 「富岡重憲コレクション」から～	齊田記念館
9月30日～12月8日	平成25年度企画展 II 「上総の古鏡―カガミが語る古墳時代の心と形―」	袖ヶ浦市郷土博物館
2014年3月21日～2014年5月6日	光風会 100 回展記念 『洋画家たちの青春―白馬会から光風会へ』	東日本鉄道文化財団

【大学史資料センター】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
7月1日～7月21日	早稲田フェスタin遠州2013企画展示 「戦地に逝ったワセダのヒーロー―松井栄造の24年―」	遠州稲門会 浜松市文化振興財団
10月21日～12月13日	「戦後日本の再出発特別展」	衆議院憲政記念館
11月20日～12月20日	「慶應義塾の昭和十八年」	慶應義塾福澤研究センター
2013年11月20日～2014年1月13日	企画展 「図書館資料が語るテレビ60年―テレビが伝えてきたもの―」	東京都立中央図書館
2014年2月15日～2014年3月23日	企画展 「大隈家の女性たち～女子教育に注いだ熱き思い～」	佐賀市大隈記念館

【文化企画課】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
10月12日～12月8日	企画展「カリノオモテ～仮面の文化」 （「祈る・舞う・結ぶ 仮面展」）	神奈川県立地球市民 かながわプラザ（あーすぷらざ）
10月19日～12月8日	第29回特別展 「異文化への舟渡し―グローバル化と戸田―」	戸田市立郷土博物館

地域交流事業

文化推進部は、本学の優れた文化資源を公開し各地の教育研究活動に役立て、また、本学が有する人的資源を地域社会の教育や文化推進に活用し社会貢献するため、さまざまな文化事業を展開している。本学のキャンパスが所在する地域や包括協定・文化交流協定を締結した地域で、大学が所蔵する貴重な文化財を巡回展覧会により公開している。また、地域の行政・企業・住民と連携して、本学の学生・教職員に校友も加わり、演劇・映画・映像・音楽・文学・芸術・科学・スポーツなどの多様なイベントを協働で実施している。

1．新宿区

平成25年度 文化庁補助事業「地域と共に歩む演劇博物館」

文化庁が実施する「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」として、「地域と共に歩む演劇博物館」という企画が採択された。日本語を母語としない児童・生徒と日本人の児童・生徒との交流を計りつつ、日本の伝統演劇を通じて日本理解を進めるための体験学習の場を設けることを柱とする事業を目指し、本館にて3回、特別支援学校にて2回、合計5回にわたって「日本の伝統演劇体験講座」を実施した。本事業は2010年度より実施され、4回目を迎えた。

■「日本の伝統演劇体験講座」

【本館にて実施した講座】

①『感じてみよう　動いてみよう　―狂言と講談』
一線で活躍されているプロの演者を講師とし、実体験から資料の解説まで受けられる貴重な機会を提供した。
日時：11 月 23 日（土・祝）13:00 ～ 16:00
講師：善竹十郎（能・狂言）、宝井一凜（講談）

②『はなしてみよう　うたってみよう　―常磐津と落語』
一線で活躍されているプロの演者を講師とし、実体験から資料の解説まで受けられる貴重な機会を提供した。
日時：11 月 30 日（土）13:00 ～ 16:00
講師：常磐津和英太夫（常磐津）、常磐津菊寿郎（常磐津）、立川談修（落語）

③『自分で作ってみよう　写してみよう　―写し絵』
劇団みんわ座の協力を得、江戸の映像文化「写し絵」体験のワークショップを開催した。
日時：12 月 14 日（土）13:00 ～ 16:00
講師：山形文雄（劇団みんわ座代表、江戸写し絵師）

会場はいずれも演劇博物館（通訳付き）

【特別支援学校への出張講座】

一線で活躍されているプロの演者を講師とし出張講座を開催した。
日時：11月26日（火）10:00～11:30　都立光明特別支援学校
　　12月5日（木）11:00～12:30　都立光明特別支援学校そよ風分校
講師：善竹十郎（能・狂言）

■「来て・見て・楽しい　新宿フィールドミュージアム」（文化企画課）

文化企画課では、新宿区の呼びかけ（新宿区文化芸術振興基本条例）により2011年度から始まった「来て・見て・楽しい・フィールドミュージアム」（主催は新宿フィールドミュージアム協議会）に参加し、「早稲田文化芸術週間 2013」のプログラムを一般に公開している。…詳細は29ページ

■近隣住民・商店会との連携（文化推進部）

文化企画課ならびに文化推進部では、近隣住民ならびに商店会との連携も深めており、2011年度から毎年3月に大隈記念講堂にて行われている「早稲田の街スプリングコンサート」を文化推進部が協力する形で開催した。また、南門商店会のリーフレットに演劇博物館と會津八一記念博物館の紹介を入れてもらい、より地域の方に親しみを持ってもらうよう、活動を行った。また、次年度以降は、「早稲田小劇場どらま館」の施工の話もあり、地域活動はより深く、重要なファクターになるものと考えられる。

2．静岡県熱海市

熱海市は逍遙終焉の地で、逍遙が晩年を過ごした双柿舎や、逍遙が眠る海蔵寺がある。また、逍遙は熱海市歌も作詞した。熱海市では演劇博物館と協力し逍遙顕彰事業を実施しており、毎年逍遙の命日2月28日には、演劇博物館と共催で「逍遙忌記念祭」を開催し、講演会や記念上演を行っている。2011年度からは逍遙忌記念祭に合わせ、熱海市での坪内逍遙顕彰を中心とした文化振興について、本学・熱海稲門会・美濃加茂市とを交えた意見交換会も毎年行っている。

■「第43回　逍遙忌記念祭」

日時：2014年2月28日（金）13:00
会場：熱海市「起雲閣」（音楽サロン）
主催：熱海市・熱海稲門会・演劇博物館
内容：記念式典、お慕いのことば、来賓挨拶
逍遙作詞歌斉唱「としのはじめ」「開いた開いた」「郵便箱の歌」「世界の公園」「熱海市歌」（坪内逍遙のうた保存会）
記念講演「坪内逍遙とシェイクスピア受容　―翻訳と朗読―」（演劇博物館副館長　児玉竜一）
お礼のことば
終了後、海蔵寺墓参

3．佐賀県佐賀市

早稲田大学は2006年12月19日、大隈重信の出身地である佐賀県と「連携協働に関する基本協定」を締結し、様々な教育・研究の協働事業を展開している。また、佐賀市には大隈候生誕125周年を記念して開館した大隈記念館と国の指定史跡である大隈重信旧宅（生家）があり、毎年2月中旬から3月下旬の「佐賀城下ひなまつり」にあわせて企画展覧会を開催している。早稲田大学との文化事業の窓口は文化企画課が担い、文化推進部三機関のほか早稲田大学図書館が協力し、各機関が所蔵する文化財・美術品を貸し出し、展覧会に貢献している。

■「平成25年度（2013年）　大隈祭」

神事／式典／スピーチ／記念講演
期日：2013年5月12日（日）
会場：大隈記念館　大隈侯銅像前
主催：佐賀市大隈記念館保存会
※本学は校友会佐賀県支部と共に協力
記念講演：大隈重信が追い求めたもの
講師：島善高（社会科学総合学術院教授）

4．埼玉県本庄市

早稲田大学創立125周年事業として、2004年10月に早稲田リサーチパーク（本庄市）のコミュニケーションセンターにおいて、早稲田大学図書館・演劇博物館・會津博物館が収蔵する文化財を公開する展覧会「早稲田大学所蔵品展示会 in 本庄拠点」を開催した。本学が本庄キャンパスに収蔵する文化資産を鑑賞していただくことにより、本庄地域の住民の皆様に本学への理解を深めてもらうことを目的とした。
それを契機に以後毎年展覧会を開催し、地元との交流事業に発展していった。文化企画課（2006年度までは文化事業センター）は設置されると同事業の所管箇所となった。財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構と協力し、本庄市と美里町、児玉町、神川町、神泉村、上里町、岡部町など周辺の市町村と連携して実施している。
なお地元から特別の要望を受け、「祭禮錦・能装束―山口憲の世界―」展、「本庄早稲田能」などの催し物も開催した。また、2012年には、本庄市教育委員会の協力のもと「大久保山―浅見丘陵の土地利用史―」を開催した。

5．中野区

中野区との地域交流事業として、2010 年より早稲田大学交響楽団による「Maple Concert」(メープルコンサート) を開催している。

■「中野区・早稲田大学交流事業　早稲田大学交響楽団Maple Concert」

日時：11月24日（日）14:00～16:00
会場：なかのZERO　大ホール
主催：中野区、早稲田大学（文化推進部）
協力：なかのZERO指定管理者
指揮：田中雅彦

早稲田大学の学生、教職員、校友の文化・社会貢献として中野区と文化交流を図る事業である。本学と中野区との4回目の文化事業である。早稲田大学交響楽団により、「レオノーレ序曲第3番作品72」、「ヴァイオリン協奏曲ホ短調作品64」、「鍛冶屋のポルカ」、「美しく青きドナウ」等が演奏された。1,292席のうち1,136席の来場者数があった。今後、本学と中野区とが末永く繋がるひとつの文化交流である。

■早稲田大学エクステンションセンター中野校開校記念講演
阿刀田高　講演・朗読会「小説と早稲田―YES & NO―」

日時：2014年2月10日（月）13:00～16:30
会場：なかのZERO　小ホール
主催：エクステンションセンター、文化推進部
協催：なかのZERO指定管理者
後援：中野区
出演：阿刀田高（講演）・阿刀田慶子（朗読）

プログラム　第1部：阿刀田慶子先生朗読「花あらし」（40分）
第2部：阿刀田高先生講演「小説と早稲田―YES & NO―」（60分）

早稲田大学エクステンションセンター中野校開校を記念し、本学校友で早稲田大学芸術功労者である阿刀田高氏、御夫人の阿刀田慶子氏をお招きして講演会と朗読公演を開催した。事前予約で満席となり、大好評を博した。本学では阿刀田氏の講演会を2009年、2012年、2013年と3回に渡り開催し、2012年からは慶子氏の朗読も加わり、毎回好評を博している。第1部では慶子氏の情感豊かな朗読が、阿刀田作品に新たな息吹を吹き込んだ。第2部では阿刀田高氏のユーモアを交えた絶妙な切り口のお話が観客を惹き付けた。質疑応答では活発な質問が寄せられ、大盛況のうちに終了した。

6．千葉県鴨川市

鴨川市と本学の間で「鴨川市太海多目的公益用地に関する基本合意書」（セミナーハウスの誘致）の締結をしたことを契機に、鴨川市民に早稲田大学を理解していただくため、1997年より開始した交流事業である。学術・文化・スポーツなど幅広い分野におよぶ交流事業が長年にわたり続けられており、現在では鴨川市ならびに市民はもちろん、周辺地域も含めた総合的、広域的な地域交流事業となっている。
安房地域の小学生を対象とした理工学術院教職員の指導による「おもしろ科学実験教室」の開催を中心に、本学教授による講演会、市民が直接キャンパスを訪れるキャンパスツアーなど様々な事業を実施している。

■「第16回おもしろ科学実験教室」

日時：8月28日（水）9:30～12:00、13:30～16:00
会場：鴨川市文化体育館（鴨川ドーム）
主催：鴨川市、早稲田大学
参加：小学生188人およびその父母
内容：①たんていは君だ！～ルミノールを使った科学捜査～
②身近なもので化学実験～ヨウ素入りうがい薬で実験してみよう～
③重力ってなあに！
④ぴかぴかスフェリコンを作ろう

7．長野県軽井沢町

現在、追分に軽井沢セミナーハウスがある。野球場、サッカー練習場、テニスコート、バスケットコート等の運動施設があり、恵まれた自然環境のなかで、運動と地域の特色などを活用した新たな教育研究活動が行われている。

交流事業としては、理工学術院教職員の指導による軽井沢町の小学生を対象とした「おもしろ科学実験教室」を長年開催している。通常では公開されていない軽井沢セミナーハウスの教室で実施し、少人数で親と子がふれあいながら楽しく学んでいる。

■「第16回おもしろ科学実験教室」

日時：7月20日（土）10:00〜11:45、13:15〜15:00
会場：軽井沢セミナーハウス　グリーンハウス教室
主催：軽井沢町、早稲田大学
参加：小学生90人およびその父母
内容：①不思議なプロペラを作ろう！
②君達はお母さん似？お父さん似？〜光るDNAが伝える神秘〜

8．岐阜県美濃加茂市

2007年4月、文化推進部発足を機に、本学は坪内逍遙と津田左右吉の生誕地である美濃加茂市と「文化交流協定」を締結した。
美濃加茂市は逍遙の功績を称え市民文化の向上を図るため、1994年に「坪内逍遙大賞」を創設し、演劇分野において坪内逍遙の功績を再認識させるような優秀な活動・著作を表彰している。本学は文化交流協定の一環として2007年に「早稲田大学坪内逍遙大賞」（37ページ参照）を制定し、互いに隔年で授賞することとなった。
この他、以下の様々な交流事業を実施している。

（1）学生演劇公演（文化推進部）

学内公募で選ばれた本学の学生劇団が、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムに約1週間合宿し野外公演を行う企画で、2009年度より毎年9月に実施。滞在中に県立加茂高等学校での演劇ワークショップ（2011年〜）、坪内逍遙顕彰会との交流、坪内逍遙に関する学習なども行ってきた。

■第6回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業　学生公演
劇団森「ペレストロイカ」

日時：9月7日（土）、8日（日）18:30〜
会場：みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム 芝生広場（雨天時エントランスホール）
作・演出：森屋和　　出演：劇団森
主催：文化推進部、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム
協力：坪内逍遙博士顕彰会

2009年初回から参加の「劇団森（しん）」13名が、9月3日（火）〜9日（月）滞在した。作品は「ペレストロイカ＝再構築」がテーマ。大人になっていく少女を主人公に、童話的モチーフを散りばめ、分解し、再構築した、幻想的な作品。公演1日目はあいにくの雨となったが、エントランスホールにて独特の舞台空間を創り上げた。2日目は芝生広場で上演。学生のエネルギーと美しい照明が森とマッチした幻想的な舞台は、地元の観客を魅了した。地元の新聞、メディアに多数取り上げられ、昨年に引き続きローカルラジオ「FMら」生出演も行った。初日には藤井浩人市長にもご観覧いただき、学生に直接激励をいただいた。
公演前の9月4日には、2011年より毎年行っている県立加茂高等学校での演劇ワークショップを実施し、高校生に演劇の魅力を伝えた。今回は同校の文化祭での作品を鑑賞し講評も行った。

（2）「木立に響く逍遙」後援（演劇博物館）

2010年度より毎年秋に、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム主催で開催される、邦楽による逍遙作品の演奏会。演劇博物館より講師を派遣し、企画段階から協力している。

■邦楽で描く児童劇の世界　木立に響く逍遙vol.4

日時：10月5日（土）18:30〜20:00
会場：みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム エントランスホール
出演：濱口久仁子、新内剛士、新内仲之介
主催：美濃加茂市、坪内逍遙作品研究・上演実行委員会
後援：演劇博物館
協力：坪内逍遙博士顕彰会

美濃加茂市出身の坪内逍遙作品を古典芸能によって上演するイベント。2010年秋からみのかも文化の森で開催し、様々な形で逍遙作品を紹介している。今回は江戸浄瑠璃新内節による逍遙作児童劇「蠅と蜘蛛」を新内剛士作曲により演奏。また新内節特有の演奏形態である「新内流し」も披露され、古典芸能の普及にも貢献した。近隣の市町からも多くの参加者がありリピーターも多く好評を博している。2014年秋にも開催予定。

（3）「坪内逍遙大賞受賞者記念事業」協力（文化推進部・演劇博物館）

（4）「逍遙フォーラム」後援（演劇博物館）

9．群馬県伊勢崎市

■伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校　アカデミックキャンプ2013

四ツ葉学園中等教育学校が、目標としている「高い知性と道徳性を身に付けた教養人の育成」を目指し、学校内で「伝統文化」領域の学習を選択した生徒が毎年8月始めに演劇博物館を訪問、歌舞伎、能など伝統文化についての講演を受講している。

日時：8月3日（土）11:15〜12:45　　講師：児玉竜一演劇博物館副館長
場所：6号館3階318教室　　参加者：四ツ葉学園中等教育学校　第2学年　30名
演題：歌舞伎という文化

講演終了後、伝統文化を中心とした演劇博物館の見学を行った。

顕　彰　事　業

1．早稲田大学坪内逍遙大賞

2007年に迎えた創立125周年を記念して、近代日本の文芸・文化の創造者ともいうべき坪内逍遙の偉業を顕彰すると同時に、その精神をひろく未来の文化の新たな創出につなげるという願いから、文芸をはじめとする文化芸術活動において著しい貢献をなした個人（もしくは団体）を顕彰すべく、「早稲田大学坪内逍遙大賞」を創設した。また、これからの文化の担い手である若い才能を応援すべく、奨励賞を併せて創設した。あまたある文芸・文化関係の賞のなかで、広く開かれた独自の意義をになう賞を目指す。文芸・文化・芸術活動のなかから、隔年で、「大賞」1名、「奨励賞」1名を選んで顕彰することを目的とする。副賞として記念のメダルと大賞100万円、奨励賞50万円を贈呈している。
なお、2013年度実施の「奨励賞」については、異なる分野からの選出があり、特例的に2名を顕彰した。

逍遙の名を冠する賞は、すでに1994年に彼の生まれ故郷である岐阜県美濃加茂市に創設されている。逍遙の業績の顕彰と演劇文化の発展を目指した賞として、2012年までに14回を数え、毎回演劇界で活躍した人々に授賞している。この「美濃加茂市坪内逍遙大賞」は、2004年度の第10回までは毎年選考が行われてきたが、それ以後は隔年の授賞となった。
早稲田大学は、文化推進部が2007年4月に発足したのを機に、美濃加茂市との間で同年春に文化交流協定を締結した。この協定の精神には、本学の地域連携の理念があり、具体的には、早稲田大学と美濃加茂市とが、隔年で独自の選考基準に基づきつつも、坪内逍遙大賞を選考し、結果的に毎年の授賞を実現しようというものである。美濃加茂市坪内逍遙大賞が、演劇人の顕彰であるのに対して、早稲田大学坪内逍遙大賞は、坪内逍遙の業績に鑑み、文芸をはじめとする文化全般に貢献し人々を顕彰することを目指している。

第四回（2013年）

大　賞　　小川洋子

【授賞理由】小川洋子氏は芥川賞受賞作「妊娠カレンダー」から、ベストセラーとなった『博士の愛した数式』（読売文学賞）、『ことり』（芸術選奨文部科学大臣賞）に至るまで、一作ごとに新たな物語世界の地平を切り拓いてきた。その優しく無垢でありながら残酷なほど精緻で、リアルでありながら幻想的な雰囲気を漂わせる作風はいまや日本の境界を越え、多くの外国語に翻訳され、国際的にも高い評価を得ている。また映画や現代アート・漫画・絵本などの分野とのコラボレーションも多く、その作品は幅広く受容され、広範な読者に支持されている。今後さらなる活躍が期待される、坪内逍遙大賞に相応しい現代日本を代表する作家の一人である。

第4回大賞
小川洋子氏

第4回奨励賞
小野正嗣氏

第4回奨励賞
山田航氏

奨励賞　　小野正嗣

【授賞理由】小野正嗣氏は、クレオール文学についての気鋭の研究者にして、ナイポール、グリッサンなどのすぐれた翻訳者でもある。だが、彼は何より「小説家」であり、その才覚は、「小説」の孕みうる多様性のなかに、第一級の研究、翻訳力を柔軟に呼び込む貴重な力量にかかっている。ことに『獅子渡り鼻』は、この力量を存分に窺わせるのみならず、独自の時間処理技法などの生彩を通して、日本小説の可能性を若々しく開拓した作品にほかならない。依って、奨励賞に価すると考える。

奨励賞　　山田航

【授賞理由】山田航さんは短歌の世界に現れた超新星と言うべきでしょう。短歌は1980年前後から新しい時代、新しいモードに入りました。俳万智や穂村弘らが、その先頭を走ったことは周知の通りです。歌人としても、また、批評家としても、山田航はその後を引き継ぐ最も重大な存在になりつつあります。山田航の短歌は「新しい」だけでなく、長い間、短歌の美しさとして称揚されて来た、深い叙情性も持っています。伝統と新しさの融合は、坪内逍遙の特徴でもありました。坪内賞の奨励賞にふさわしい人物であることは疑いを入れません。

2．若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）

宮崎県出身の歌人、若山牧水（1885〜1928）を顕彰する短歌募集事業。若山は県立延岡中学を経て、早稲田大学英文科卒（1908）。同級生の北原白秋（射水）、中林蘇水と親交を厚くし、「早稲田の三水」と呼ばれる。
毎年、全都道府県から広く募集し、短歌大賞、優秀賞などを決定しているが、早稲田大学は「審査員特別賞　早稲田大学賞」とし て、3名顕彰している。

http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/display.php?cont.120416091655

3．梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）

梓立祭（しりつさい）は、「学苑創立の母」と言われる小野梓（1852〜1886）の誕生日2月20日（新暦の3月10日）を記念日として祝い、小野梓を顕彰するとともに、幕末から明治・大正・昭和へと時代が変わり行く中でそれぞれの分野で活躍した宿毛の偉人たちも順次顕彰し、その足跡に学びながら青少年の健全育成や宿毛の文化・教育の発展に寄与する。
作文、絵画の各部門ごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞を小学生、中学生各1名を顕彰する。

http://www.gallery.ne.jp/~okutan/index.htm

4．全国学芸サイエンスコンクール（旺文社）

内閣府・文部科学省などの後援を得て「全国学芸科学コンクール」は、「全国の小・中・高校生の研究・アートおよび文芸の振興 奨励と、青少年の個性の育成」として、1957年から旺文社が毎年実施している。
このコンクールは、幅広く多様な分野に部門を設け、児童生徒がそれぞれの得意分野で制作した作品をご応募するコンクールと なっている。優秀作品には、内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・環境大臣賞などが授与される。早稲田大学は「早稲田大学総長賞」として、文芸部門の優秀者を顕彰している。

http://gakkon.obunsha.co.jp/

学術研究書出版制度

1．学術研究書出版制度成立の経緯と目的

「学術研究書出版制度」（文化企画課所管）は、「Waseda Next 125」における「出版機能検討委員会」の答申を受けて、それまでの「学術出版補助費」（研究推進部所管）に改良を加える形で、2008年度より始まった。
学術出版を奨励することは、直接的には研究成果を適切かつ公正に評価して上梓することであるが、その目的は本学の学術情報発信による社会貢献であり、本学のアカデミック・ステイタスをより向上させていくことにある。また全学の代表者からなる出版企画委員会が「学術の品質保証」をすることにより、本学常勤教員および本学で研究指導を受けた博士学位取得者による研究成果を、早稲田大学出版部を通じて良質な研究書として世に送り出していくことを目指している。

2．学術研究書出版制度の概要

この学術研究書出版制度では、本学の常勤教員および本学博士学位取得者（当該博士論文を応募原稿とする場合のみ）を有資格者として年2回募集を行う。応募内容は専ら研究書に限り、専門審査員による書面審査と出版企画委員会での合議審査を経て採否が決定される。
募集する種別は、出版機会の提供を趣旨とする**「早稲田大学モノグラフ」**（主に課程博士論文を対象とする）と本学のアカデミック・ステイタスを向上させるために厳選される**「早稲田大学学術叢書」**の2種類がある。
またモノグラフとして刊行されたものの中で特に高い評価を得たものについては、出版企画委員会の審査を受け再編集を行い、改版して学術叢書としての刊行を認める「グレードアップ制度」も整備されている。
また、出版にかかる費用については、大学が直接出版経費の全額を負担している。
ただし、モノグラフについては、研究推進部の公的研究資金の間接費を財源としている。
※制度の詳細については、「募集要項」に掲載されている。

3．出版企画委員会等の動き

(1) 出版企画委員会

2008年度　4回開催
2009年度　2回開催
2010年度　2回開催
2011年度　3回開催
2012年度　4回開催
2013年度　第1回（2013年7月10日）　2013年度第1回目の合議審査と採否決定
　　第2回（2013年10月中）　「刊行物の電子本化について」持ち回り審議
　　第3回（2013年11月27日）2013年度第2回目の合議審査と採否決定

※出版企画委員会は文化推進を担当する理事の諮問機関として、出版企画委員会設置要綱第4条により各学術院選出委員と関係する本部役職者委員等の合計16名で構成されている。

(2) アドバイザリーボード

2009年度第1回（2009年7月3日）　第2回（2010年1月13日）

※出版企画委員会から付託された事項につき調査および検討を行い、委員会に報告することを主要な職務としている。

早稲田大学モノグラフ

早稲田大学学術叢書

学術研究書出版制度

【学術研究書出版　応募・採択状況】

経年	年　度	募集回	モノグラフ			学術叢書			(註)学術叢書(ｸﾞﾚｰﾄﾞｱｯﾌﾟ)		
			応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	候補	採択	採択率
1	2008 年度	第 1 回	5	4	80.0%	4	1	25.0%	―	―	―
		第 2 回	11	10	90.9%	5	1	20.0%	―	―	―
2	2009 年度	第 1 回	11	8	72.7%	2	2	100.0%	1	1	100.0%
		第 2 回	9	5	55.6%	7	4	57.1%			
3	2010 年度	第 1 回	12	8	66.7%	8	4	50.0%	7	6	85.7%
		第 2 回	11	10	90.9%	5	3	60.0%			
4	2011 年度	第 1 回	13	11	84.6%	3	1	33.3%	3	3	100.0%
		第 2 回	11	11	100.0%	3	2	66.7%			
5	2012 年度	第 1 回	13	13	100.0%	3	0	0.0%	6	5	83.3%
		第 2 回	12	10	83.3%	4	2	50.0%			
6	2013 年度	第 1 回	14	11	78.6%	0	0	0.0%	6	5	83.3%
		第 2 回	12	8	66.7%	5	2	40.0%			
	(合計)		134	109	―	49	22	―	23	20	―
	(平均)		11.2	9.1	81.3%	4.1	1.8	43.9%	4.6	4.0	87.0%

(註) グレードアップとは、優秀な研究者の発掘を趣旨として、モノグラフ刊行後に特に高い評価を得たものについて、出版企画委員会での再審査を経た上で、学術叢書として編集・改版をして刊行するものである。2009 年度末に開始され、2008 年度まで遡って採否が決定されている。※モノグラフ・学術叢書で採択されても著者都合で刊行を取止めることとがある。

【早稲田大学学術研究書出版　刊行書籍(2013年度)】

(1)モノグラフ(早稲田大学出版部刊行)

刊行番号	著　者	書　名	刊行年月
88	Yuki Uchida	The Role of Estrogen in Modifying Thermoregulation and Related Behavioral Responses	2013年10月
89	魏　宏　標	中国天然ガス市場自由化と不可欠施設の開放・分離規制の在り方――日本欧州の経験を中国に	2013年11月
90	謝　佳　君	共同正犯と従犯の区別に関する研究――日中比較法的考察	
91	小　松　寛	戦後沖縄における帰属戦争と民族意識――日本復帰と反復帰	
92	Xianneng Li	Study on Probabilistic Model Building Genetic Network Programming	2013年10月
93	高　橋　久　美	シャトーブリアンにおける自由の表象	2013年11月
94	鈴　木　寿　子	共生社会の構築を支える日本語教師養成の実践研究	
95	雲　藤　等	南方熊楠と近代日本	
96	工　藤　龍　太	合気道における合気の意味の歴史的研究	2013年12月
97	杉　山　剛	奥宮慥斎の研究――明治時代を中心にして	
98	春　日　芳　美	日本の女子中等教育における「体操科」の発展と「女子体育論」の諸相――明治後期から大正期における女子体育振興方策に着目して	2013年11月
99	河　合　伸　治	ヘドニック・アプローチによる地域住民の選好の推定――東京大都市圏の賃貸住宅を事例として	2014年3月
100	冨　永　敦　子	ｅラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業の文章作成力に及ぼす効果	2014年2月
101	楯　身　智　志	漢代二十等爵制の研究	2014年2月
102	岸　田　伸　幸	イノベーションエコシステムのための社会システム設計法の研究――医療情報オープンソースソウトウエア事例研究を中心として	2014年3月
103	藤　岡　典　夫	予防原則と比例原則	2014年3月
104	青　柳　有利子	南部藩の能楽	2014年2月
105	朴　周　鳳	韓国における伝統武芸の創造	2014年3月
106	李　聖　傑	川端康成の「魔界」に関する研究――その生成を中心に	

(2) 学術叢書(早稲田大学出版部刊行)

刊行番号	著　者	書　名	刊行年月
25	奥　野　武　志	兵式体操成立史の研究	2013年5月
26	井　黒　忍	分水と支配――金・モンゴル時代華北の水利と農業	2013年5月
27	岩　佐　壮四郎	嶋村抱月の文藝批評と美学理論	2013年5月
28	高　橋　弘　幸	企業競争力と人材技能――三井物産創業半世紀の経営分析	2013年7月
29	高　橋　勝　幸	アジア冷戦に挑んだ平和運動――タイ共産党の統一戦線活動と大衆参加	2014年1月
30	小　松　志　朗	人道的介入――秩序と正義、武力と外交	2014年2月
31	渡　邉　将　智	後漢政治制度の研究	2014年3月

※編集の関係から刊行が翌年度となることがある。

2013 年度　刊行物

文化推進部の各機関では、所蔵資料の目録、展覧会の図録、研究紀要などを定期的に発行している。2013年度に刊行されたものは以下のとおりである。なお、価格は2014年3月31日現在のものである。

【演劇博物館】

(1) 館報 演劇博物館　109

発行：2013年9月21日
B5版　76ページ
価格：500円(税込)

(2) 館報 演劇博物館　110

発行：2014年3月24日
B5判　59ページ
価格：500円(税込)

(3) 図録 新耽奇漫録(「新耽奇会展―奇想天外コレクション」展覧会図録)

発行：2013年10月15日
B5版　215ページ
価格：1,000円(税込)

(4) 図録 豊竹山城少掾展

発行：2013年11月15日
B5版　120ページ
価格：800円(税込)

(5) 図録 今日もコロッケ、明日もコロッケ―“益田太郎冠者喜劇”の大正

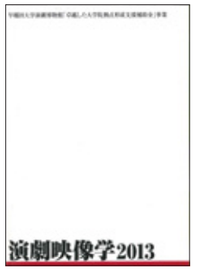
発行：2014年3月15日
B5版　72ページ
価格：900円(税込)

(6) 紀要 演劇研究　第三十七号

発行：2014年3月24日
A5判　306ページ

【研究】
・日本プロレタリア演劇運動の系譜―中国・大連における終盤戦(藤田富士男)
【資料紹介】
・『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿(天和二年・三年分)(青柳有利子、入口敦志、江口文恵、木村涼、近藤弘子、田草川みずき、深澤希望、柳瀬千穂、竹本幹夫)
・「三村竹清日記　不秋草堂日暦(二十二)」(三村竹清日記研究会)
・『ハウス』(2000)におけるグラモフォン：その無音性が物語るもの(三神弘子)
・「白井鐵造によるレビュー作品≪パリゼット≫をめぐる考察」(石坂安希)
・「トーキーはP・C・L」P・C・Lの音楽性がもたらしたもの～P・C・L黎明期における音楽性の導入とレヴュー映画の発展～(ヨハン・ノルドストロム)
・「聖」なる女たち：占領史的文脈から「母もの映画」を読み直す(紙屋牧子)
・映画＝テレビ移行期の映画スターに見る脱スタジオ・システム的共闘―池部良と佐田啓二を事例に―(羽鳥隆英)
・初期東映動画における教育映画の位置―主に国際化路線との関わりから(渡邉大輔)
・“What? Hast smutched thy nose?”: Medical Discourse in The Winter's Tale (Yuto KOIZUMI)

(7) 演劇映像学 2013



発行：2014年3月10日
A5版　210ページ
【研究】リサーチアシスタントの論文集

【會津博物館】

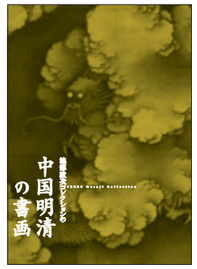
(1) 図録
花岡萬舟　戦争画の相貌Ⅱ

発行：2013年5月20日
B5判変形　51ページ
価格：1,000円（税込）

(2) 図録
戸ノ内貝塚発掘調査報告展

発行：2013年11月15日
A4判　36ページ
価格：700円（税込）

(3) 図録
池部コレクションの明清書画



発行：2013年9月24日
A4判　77ページ
価格：1,200円（税込）

(4) 紀要
早稲田大学
會津八一記念博物館
研究紀要
第15号

発行：2014年3月25日
A4判　171ページ
価格：1,500円（税込）

【大学史資料センター】

(1) 大隈重信関係文書10

発行：2014年3月10日
A5判　455ページ
価格：12,000円（税込）

(2) 紀要
早稲田大学史記要
第四十五巻

発行：2014年3月24日
A5判　348ページ

論文1本『大学教育の質保証に関する日英比較――九六〇～七〇年代の政策文書における質の議論に基づいて』、資料紹介4本『市島謙吉編「大隈家収蔵文書」（抄録）上』『市島謙吉「早大紀念録」』『丸山達雄氏寄贈「安部磯雄関係資料」（目録）』『風見翔平氏寄贈「風見章関係文書」（目録）』、その他早稲田大学百五十史編纂事業進捗状況報告、事業報告、展示会報告、講演会記録、聞き取り記録等を収録。

早稲田大学では、多くのオリジナルグッズを制作・販売している。ここでは、特に文化推進部の各文化機関が2013年度に制作・販売したミュージアムグッズについて記録する。なお、価格は2014年3月31日現在のものである。

【演劇博物館】

(1) 卓上カレンダー2013

透明スタンド付（15cm×15cm）
1部 500円（税込）

(2) ポストカード

12種類　1枚　100円（税込）

(3) 一筆箋

8cm×18cm　30枚
1冊　300円（税込）

(4) クリアファイル

4種類　A4サイズ
各　200円（税込）

(5) グリーティングカード

35種類　日本語解説
および封筒付（11cm×21cm）
1枚　200円（税込）

(6) チケットホルダー

(23cm×10cm)
1個　300円（税込）

(7) コースター

9cm×9cm　1セット（10枚）
200円（税込）

【會津博物館】

(1)「明暗」クリアファイル

A4サイズ　1枚　200円（税込）

(2) 開館記念名品聚（愛蔵版ポストカード）

1セット（全8枚）　950円（税込）
1枚　120円（税込）

(3) 一筆箋

1冊　300円（税込）

(4) ポストカード

32種類
1枚　100円（税込）

【文化企画課】

(1) カレンダー

A3版　壁掛け
1部　500円（税込）

(2) クリアファイル

サイズ　A4
1枚　200円（税込）

(3) ポストカード

全13種類
1枚　100円（税込）

(4) ミニクリアファイル

115㎜×160㎜
1枚　180円（税込）

(5) ミニメモパッド

75㎜×75㎜　30枚
1冊　150円（税込）

《藪野健　大隈講堂 絵画シリーズ》

(6) 大隈講堂 一筆箋

1冊（40枚）300円（税込）

(7) 大隈講堂 マグカップ

口径80㎜×高さ88㎜
磁器（美濃焼）
1個　1,200円（税込）

(8) 大隈講堂 トートバッグ（ベージュ）

W270×H360×D90（㎜）
カラー転写プリント
生地：ナイロン100%（厚手）
（裏PVC加工）
持ち手：ポリプロピレン100%
1個　2,750円（税込）

(9) 大隈講堂 トートバッグ（ブラック）

W270×H360×D90（㎜）
シルクプリント
生地：ナイロン100%（厚手）
（裏PVC加工）
持ち手：ポリプロピレン100%
1個　2,250円（税込）

(10) 大隈講堂 ポストカード

1枚　100円（税込）

(11)「集り散じて」ポストカード

1枚　100円（税込）

文化推進部の広報活動として、定期的に掲載しているものを紹介する。以下のほか、文化推進部では、演劇博物館、會津八一記念博物館、文化企画課の三機関がイベント案内を中心としたメールニュースを発行している。

1．早稲田学報

隔月。校友向け冊子。早稲田大学校友会が発行。
「早稲田文化」コーナーでは、文化推進部（演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター、文化企画課）と図書館の各箇所イベント情報を、シリーズ「わせたから：早稲田のたからもの」では、本学が所蔵する品々などを様々なエピソードとともに紹介している。

【早稲田学報「わせたから」掲載記事】(2013 年 4 月号～2014 年 2 月号)

号　数	記　事　題　名	執　筆　者
2013 年 4 月号	フォーチュン座模型	大木絢深（演劇博物館）
6 月号	花岡萬舟　戦争画の相貌 II	町田つかさ（元會津八一博物館）
8 月号	「青いやきもの」展	浅井京子（會津八一博物館）
10 月号	豊竹山城少掾展	小島智章（演劇博物館）
12 月号	寺山修司・新資料	梅山いつき（演劇博物館）
2014 年 2 月号	パプアニューギニアの精霊を形象する 仮面土器	平原信崇（文化企画課）

2．Waseda Online（ワセダオンライン）（http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/）

毎月掲載。2008年5月から掲載。
Yomiuri Online（読売新聞社、インターネット版）ワセダオンラインとして掲載。早稲田大学のニュース、研究力などの分野に分かれており、その中の「文化」欄で記事を掲載。日本語で掲載された後、翌週からは英語訳でも掲載される。

【ワセダオンライン「文化」掲載記事】(2013 年 4 月～2014 年 3 月)

年　月	記　事　題　名	執　筆　者
2013 年 4 月	「ペンから剣へ―学徒出陣 70 年―」展によせて	望月雅士（大学史資料センター）
5 月	「アジア演劇仮面展―館蔵コレクション」に寄せて	石井理（演劇博物館）
6 月	大隈記念講堂技術専門員としての６年間	玉谷健一（大隈記念講堂 技術専門員）
7 月	新しい演劇人<ドラマトゥルク>養成プログラム　―未来のアートマネジメントに向けて―	藤井慎太郎（文学学術院）
8 月	早稲田学生演劇と岐阜県美濃加茂市	村瀬英彦（美濃加茂市民ミュージアム学芸員）
9 月	「大正デモクラシー期」展によせて	高橋央（大学史資料センター）
10 月	「池部政次コレクションの中国明清の書画」展	金志虎（會津八一博物館）
11 月	「木立に響く逍遙」―坪内逍遙生誕地における小さな顕彰の夕べ	濱口久仁子（演劇博物館 招聘研究員）
12 月	戸ノ内貝塚発掘調査成果報告展　―平成の印旛手賀―	中門亮太（會津八一博物館）
2014 年 1 月	早稲田大学エクステンションセンター中野校開校記念講演 阿刀田高講演・朗読会「小説と早稲田―ＹＥＳ ＆ ＮＯ―」	米本遼平（エクステンションセンター）
2 月	常設展示《映像》開設に寄せて	羽鳥隆英（演劇博物館）
3 月	「世界への跳躍、限界への挑戦　―早稲田スポーツの先駆者たちとその時代」展に寄せて	伊東久智（大学史資料センター）

3．メールニュース

発行号数	発　行　日	主　な　記　事	配信件数
22	5 月 28 日	・早稲田文化・芸術祭開催	717
23	7 月 29 日	・夏季休業期間の事務取扱 ・読売新聞「ワセダオンライン」文化欄記事掲載 ・ミュージカル「SE・M・PO」―日本のシンドラー杉原千畝物語 ・第 6 回　早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業　学生演劇公演	711
24	10 月 11 日	・「早稲田文化芸術週間 2013」 ・多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス＆ワークショップ ・早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2013」 ・第 4 回「早稲田大学坪内逍遙大賞」決定 ・「2014 年版早稲田大学カレンダー」発売開始	820
25	11 月 13 日	・早稲田クイズ　文化芸術編（第 1 弾）公開 ・「2014 年版早稲田大学カレンダー」発売中	814
26	12 月 16 日	・早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞受賞 記念講演 ・早稲田大学エクステンションセンター中野校開校記念講演 ・ワセダオンライン 11 月号「文化」欄掲載紹介 ・年末年始の事務取扱	997
27	2014 年 1 月 31 日	・第 5 回　早稲田狂言の夕べ ・「第四回 早稲田大学坪内逍遙大賞授賞式・祝賀会」報告ページを公開	993
28	2014 年 2 月 28 日	・第 5 回　早稲田狂言の夕べ受付 ・東京国際文芸フェスティバル開催	992

4．新聞・テレビなどで取り上げられた主なもの

年.月.日	媒　体	記事題名	取り扱い箇所
3月13日	東京聯合ニュース	韓国・大学路を紹介する企画展	演劇博物館
3月2日	NHKテレビ	学徒出陣 70 年展	大学史資料センター
3月26日	毎日新聞	早大「学徒出陣 70 年」企画展	大学史資料センター
3月27日	岐阜新聞	太平洋戦争、学徒出陣 70 年	大学史資料センター
4月1日	朝日新聞	企画展「ペンから剣へ」	大学史資料センター
4月17日	4/17東京新聞	シェイクスピア祭	演劇博物館
4月25日	毎日新聞	学徒出陣から 70 年　早大で企画展開催	大学史資料センター
5月1日	読売新聞	「顔」 早稲田大学演劇博物館初の女性館長	演劇博物館
5月1日	ギャラリー5月号	「近世の禅画」展	會津八一博物館
5月15日	月刊書道界5月号	近世の禅画	會津八一博物館
5月20日	朝日新聞夕刊	逍遙祭	演劇博物館
5月21日	新美術新聞	『阿蘭陀人がやってきた！」展開催 富田万里子氏の寄贈コレクションより	會津八一博物館
5月22日	新潟日報	ドナルド・キーンさん　原稿や蔵書 100 点展示	演劇博物館
5月22日	東京新聞	キーンさんの研究　著書や文献ずらり	演劇博物館
5月30日	東京新聞	「近世の禅画」展	會津八一博物館
6月1日	読売新聞夕刊	ドナルド・キーンさん研究の原点	演劇博物館
6月14日	日本経済新聞	寺山修司さん未発表資料　自筆ノートなど、早大に寄贈	演劇博物館
6月14日	朝日新聞	寺山修司資料 5 千件、母校早大に	演劇博物館
6月14日	毎日新聞	寺山修司のノートなど 5000 件寄託　元秘書が早大博物館に	演劇博物館
6月19日	読売新聞	寺山修司の自筆原稿、メモ　元秘書が早大博物館に寄託	演劇博物館
7月14日	産経新聞	早大で 17 日にドナルド・キーンさん講演「文楽と近松」	演劇博物館
7月22日	読売新聞夕刊	花柳寿輔「次期家元の後ろ盾」	文化企画課
8月1日	陶説	青いやきもの	會津八一博物館
8月18日	読売新聞	顔　花柳　芳次郎さん	文化企画課
8月21日	新美術新聞	もてなしの器	會津八一博物館

年.月.日	媒　体	記事題名	取り扱い箇所
8月26日	東京新聞	伝統、正しく伝えたい　花柳流次期宗家家元　20 歳の芳次郎	文化企画課
8月29日	東京新聞	「青いやきもの」展	會津八一博物館
9月1日	新美術新聞	青いやきもの展	會津八一博物館
9月1日	茶道雑誌第七十七巻第九号	青いやきもの	會津八一博物館
9月5日	中日新聞	表現の技術や楽しさ指導	文化企画課
9月10日	中日新聞	野外で幻想物語　美濃加茂　早大の学生が公演	文化企画課
10月2日	毎日新聞	小川洋子さんに坪内逍遙大賞	文化企画課
10月2日	読売新聞	坪内逍遙大賞に小川洋子さん	文化企画課
10月2日	東京新聞	小川さんに逍遙大賞	文化企画課
10月2日	日本経済新聞	大賞に小川洋子さん	文化企画課
10月2日	産経新聞	坪内逍遙大賞に小川洋子さん	文化企画課
10月3日	読売新聞	邦画の起源　迫る 900 本　洋画など 80 本含むフィルム発見	演劇博物館
10月6日	読売新聞	手帳「スリリングだった」賞選考	文化企画課
10月22日	静岡新聞夕刊	日本映画草創期の作品 東京国立近代美術館　来月 2、3 日に上映	演劇博物館
10月25日	朝日新聞夕刊	活動写真や国策映画　貴重な作品上映	演劇博物館
10月30日	朝日新聞夕刊	ミュージアムコーナー　新取奇合一奇想天外コレクション	演劇博物館
10月31日	日本経済新聞	明治・大正の貴重な映画、早大博物館で発見	演劇博物館
10月31日	毎日新聞夕刊	早大演劇博物館蔵の貴重な映画を上映	演劇博物館
11月5日	毎日新聞夕刊	シンポジウム　早大で「寺山修司」シンポ　資料寄託の元秘書ら素顔語る	演劇博物館
11月20日	朝日新聞夕刊	こだわりの珍品　持ち寄りめでる	演劇博物館
11月26日	NHK	展示室の映像、展示担当の梅山いつきさんインタビュー	演劇博物館
11月27日	朝日新聞	ことば　山田航さん　つつしんでおいわい　おでんしつつ	文化企画課
2014年1月	東京リビング	大学の博物館＆美術館	會津八一博物館
2014年1月5日	陶業時報	縄文時代から江戸時代	會津八一博物館
2014年3月5日	陶業時報	もてなしの器展	會津八一博物館

早稲田大学文化資源情報ポータル

http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/cr/portal/

1．目　的

早稲田大学の各機関ごとに現在公開している文化資源データベースを横断的に検索できるようにして、貴重資料をネット上で検索・閲覧できるようにすること、また個々の資料の関連性を把握できるようにすることにより、教育・研究に役立つだけでなく広く社会に本学の文化資源情報を発信することを目的としている。

2．主要機能・特徴

坪内博士記念演劇博物館（10 データベース）、會津八一記念博物館（10 データベース）、大学史資料センター（4 データベース）の各データベースを一元的に横断検索し、閲覧することができるシステムである。閲覧できる内容は、データベース化された文化資源の学術的な解説、画像などである。

たとえば「大隈重信」と入力すると、該当する資料を所蔵する機関、そのデータベース名、件数が横断検索される。その検索結果からさらに具体的な作品タイトル、作者などが表示され、最終的に個々の文化資源情報に到達することができる。

現状ではすべての収蔵品がデジタル化されているわけではないが、今後さらに新規データベースを構築して順次追加していく予定である。また上記三機関が機動的に文化資源を Web 公開するための共通プラットフォームの構築を進めていくことも計画している。

【博物館・資料センターの概要】

名　称	坪内博士記念演劇博物館		會津八一記念博物館	大学史資料センター
所在地	5 号館	6 号館	2 号館	79 号館
概　要	1 階：シェイクスピアの世界 六世中村歌右衛門記念 特別展示室 和書閲覧室	3 階：外国語図書・ 貴重書閲覧室 AV ブース	1 階：企画展示室 富岡重憲コレクション 大隈記念室 （大学史資料センター所管）	5 階：レファレンスルーム ・歴史的資料 ・高等教育出版物 ・高等教育関係資料
	2 階：逍遙記念室 民俗芸能 企画展示室		2 階：常設展示室 ・東洋美術資料 ・日本近代美術資料 ・考古資料 ・アイヌ民族資料 ・書画資料	
	3 階：常設展示室 （古代、中世、近世、 近代、現代、映像）			
お問合せ	Tel：03-5286-1829		Tel：03-5286-3835	Tel：042-451-1343
	E-mail：enpaku@list.waseda.jp		E-mail：aizu@list.waseda.jp	E-mail：archives@list.waseda.jp

【文化施設の概要】

名　称	大隈記念講堂		小野記念講堂	ワセダギャラリー	125 記念室
	大講堂	小講堂			
所　在　地	21 号館 1 階	21 号館地階	27 号館地階	27 号館 1 階	26 号館 10 階
利用目的	式典 講演・討論 舞台・上演	講演・討論 舞台・上演	講演・討論 演劇・映画	小規模な企画展 写真・絵画等	展覧会 美術品・貴重品
座席数	1,121 席 （車椅子用 2 席）	300 席 （車椅子用 1 席）	206 席 （最小166席・最大236席）		―
主要設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 同時通訳設備 ネットワーク設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備	常設展示壁 可動式展示壁 展示台 ディスプレイ	展示ケース 映像音響設備
付属施設	控室 調整室 調光室 映写室 同時通訳ブース	控室 調整室	楽屋・準備室 調整室		
その他	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品	※文化推進部主催 展覧会のみ

※「125 記念室」は貸し出しの対象ではありません。

大隈記念講堂
大講堂

大隈記念講堂
小講堂

文化施設

文化推進部は「大隈記念講堂」「小野記念講堂」「ワセダギャラリー」を管理、運営している。学内行事を開催することを優先しているが、その他学生団体を含め、学内団体のみならず、学外の機関、団体にも広く利用されている。また大隈記念講堂については、外部からの多くの見学者が訪れている。

1．大隈記念講堂（収容客席：大講堂 1,123 席、小講堂 301 席）

大隈重信を偲び、創立45周年の1927年10月15日に竣工された。創立125周年にあたる2007年10月に、改修工事を終え、リニューアルオープンされた。
全館空調設備が整えられ、情報系の設備も完備した多様な用途に応えられる施設となった。早稲田大学のシンボルとして、大隈記念講堂は大講堂、小講堂とも学内外の機関から国際会議、演劇、コンサート、映画などに利用されている。
大隈記念講堂は、2007年12月に国の重要文化財に指定され、また、2008年5月には社団法人照明学会より、竣工の優れた照明施設を持つとして、照明普及賞を受賞した。

2．小野記念講堂（収容客席：206 席　※舞台床板の増減により 236 席まで可能）

正門前の歴史的景観ゾーン整備の一環として、2005年に建設された小野梓記念館（27号館）の地下2階にオープンした。「文化活動の成果を発表し、さらに世界の文化と交流を図るためのホール」とすることを目標にしている。

3．ワセダギャラリー（56.35㎡）

小野梓記念館の1階にあり、小規模ながらも正門前広場に面して気軽に入れるように設置された。小規模な写真展、絵画展などに利用されている。（※学内箇所・教職員利用可）

小野記念講堂

ワセダギャラリー

■施設利用の状況

2013年度 文化施設	使用日数※1	利用団体内訳 利用件数	学内箇所	学生団体	学外団体（有料）	その他※2
大隈記念講堂（大講堂）	286日	390件	297件	55件	0	38日
大隈記念講堂（小講堂）	270日	355件	297件	21件	0	37日
小野記念講堂	262日	336件	291件※4	22件	3件	20日
ワセダギャラリー※3	192日	17件	-	-	-	-

◆　大隈記念講堂・小野記念講堂については、1～4月と8月は、公式行事、定期点検・清掃等（メンテナンス）のため、原則一般貸出しは行っていない。

※1.　使用日数には、本番当日だけではなく、リハーサル、設営準備、撤収日も含む。
※2.　「その他」とは、下見、見学、施設点検、定期清掃など。
※3.　学内箇所のみ利用可能である。
※4.　学内箇所団体のうち2団体が教職員（有料）

文化施設

■ギャラリー使用状況

イベント名	開催期間	主催者
オープンカレッジ木版画講座展覧会（伊藤先生）	5月20日（月）～5月25日（土）	エクステンションセンター
早稲田学生文化・芸術祭 2013（絵画会・早稲田スポーツ新聞会・陶芸部稲穂窯・生花研究会）	6月3日（月）～6月17日（月）	学生部・文化推進部
オープンキャンパス展	7月23日（火）～8月9日（金）	文化企画課
内海信彦サマースクール 2013「タオスワークショップ」展示会	9月2日（月）～9月9日（月）	アントレプレヌール研究会
渡部大語　書作展	10月1日（火）～10月4日（金）	文化企画課
Future image2013	10月7日（月）～10月14日（月）	長幾朗研究室（理工学術院）
白バラ（パネル展）―ヒトラーに抗した学生たち―	10月15日（火）～11月8日（金）	村上公子研究室（人間科学学術院）
オープンカレッジ水彩画講座展覧会（南口先生）	11月11日（月）～11月16日（土）	エクステンションセンター
オープンカレッジ水彩画講座展覧会（出口先生）	11月18日（月）～11月30日（土）	エクステンションセンター
オープンカレッジ写真講座展覧会（塩澤先生）	12月2日（月）～12月7日（土）	エクステンションセンター
文部科学省グローバル人材育成推進事業　採択大学全体イベント	12月13日（金）～12月16日（月）	留学センター
社会科学部佐藤洋一ゼミナール	12月17日（火）～12月24日（火）	佐藤洋一ゼミナール（社会科学総合学術院）
教育学部博物館実習クラス等成果発表	2014年1月6日（月）～2月1日（土）	教育学部博物館実習Gクラスほか（教育・総合科学学術院）
「美術研究のための写真入門」作品展	2014年2月3日（月）～2月10日（月）	オープン教育センター
文化企画課展覧会	2014年2月12日（水）～2月20日（木）	文化企画課
早稲田大学創造理工学部建築学科　2013年度卒業制作優秀作品展	2014年2月24日（月）～3月3日（月）	創造理工学部建築学科（理工学術院）
「早稲田スポーツ展～仰ぐは同じき理想の光」	2014年3月21日（金）～4月4日（金）	競技スポーツセンター

講堂設備技能判定会・初心者説明会

学生団体が講堂に設置されている照明や音響設備を利用するにあたり、技能判定会の受験を義務付けている。専門技師により講堂設備を使いこなせる技術力の判定を行い、技量のある学生に調整室への入室許可を与えている。年2回、春と秋に開催している。
また2010年度より、初心者学生向けの音響・照明設備に関する説明会を行っている。学生向けは年2回（文化・芸術祭学生用1回）、教職員向けやイベントに関連したものは年1回開催している。
徐々に認知度は高まっており、技能判定会について、2013年度は初めて放送研究会ならびに舞台美術研究会以外のサークルからの合格者を輩出した。

(1) 講堂設備技能判定会

■大隈記念講堂（照明設備）
【第12回】8月28日（参加者5名）
【第13回】2014年2月26日、2月27日（参加者14名）
※大隈記念講堂の音響設備技能判定会は実施していない。

■小野記念講堂（照明設備）
【第10回】2014年8月7日（参加者5名）
【第11回】2014年2月6日・7日（参加者8名）

■小野記念講堂（音響）
【第10回】2014年2月5日（参加者1名）

(2) 講堂設備初心者説明会

■学生向け（一般学生及び早稲田学生・文化芸術祭参加団体向け）（於小野記念講堂）
【第6回】8月5日（参加者5名）
【第7回】2014年2月24日（参加者4名）
【第8回】2014年3月27日（参加者5名）

■教職員向け（於小野記念講堂）
【第3回】参加者なしのため開催せず。

■文化推進部 (文化企画課所管)

1．文化推進会議

（1）開催記録

6月21日

（2）委員

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	十重田裕一	文化推進部長	第 4 条一号による委員
2	石見　清裕	文化推進部副部長	
3	大野　髙裕	教務部長	第 4 条二号による委員
4	笹倉　和幸	学生部長	
5	横山　勝常	総務部長	
6	根本　　進 (～ 5 月 31 日) 井上　文人 (6 月 1 日～)	社会連携推進室長	第 4 条三号による委員
7	三神　弘子	国際コミュニティセンター長	
8	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館長	第 4 条四号による委員
9	塚原　　史	會津八一記念博物館長	
10	大日方純夫	大学史資料センター所長	
11	飯島　昇藏	図書館長	第 4 条五号による委員
12	加藤　哲夫	エクステンションセンター所長	
13	川口　　浩	競技スポーツセンター所長	
14	紙屋　敦之	平山郁夫記念ボランティアセンター所長	
15	橋本　周司	学事統括文化事業担当常任理事	第 4 条第 2 項による委員
16	藁谷　友紀	文化推進部門総括理事	
17	紙屋　敦之	学生部門総括理事	
18	守田　芳秋	総務部門総括理事	

2. 三機関長協議会

（1）開催記録

第1回　5月24日　　第2回　12月19日

（2）委員

（2014年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職
1	藁谷　友紀	文化推進部門総括理事
2	十重田裕一	文化推進部長
3	石見　清裕	文化推進部副部長
4	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長
5	塚原　　史	會津八一記念博物館館長
6	大日方純夫	大学史資料センター所長

※会議には文化推進部事務部長、三機関事務長、担当課長が陪席する。

3. アドバイザリー・コミッティ

（1）開催記録

5月17日

（2）委員

（2014年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職
1	阿刀田　高	作家 (元早稲田大学客員教授)
2	岩本　憲児	早稲田大学名誉教授、 日本大学芸術学部教授
3	鳥越　文蔵	早稲田大学名誉教授
4	永井多恵子	元日本放送協会副会長、 (社) 国際演劇協会日本センター会長
5	山本　健一	演劇評論家、 元朝日新聞東京本社編集委員

※所属は2014年3月現在

4. 出版企画委員会

（1）開催記録

第1回　7月10日　　第2回　10月（持ち回り審議）
第3回　11月27日

（2）委員

委員会は、出版企画委員会設置要綱の規定による本部役職委員4名、各学術院長推薦委員10名、文化推進を担当する理事指名委員2名の合計16名で構成されている。
嘱任期間は2012年5月1日～2014年4月30日である。
なお、出版審査内容は非公開のため、委員名を省略する。

■演劇博物館

1．演劇博物館協議員会

（1）開催記録

第1回　5月29日　　第2回　7月10日
臨時　9月19日　　第3回　11月6日
臨時　2014年2月10日　　第4回　2014年3月5日

（2）委員

（嘱任期間：2013年4月1日～2015年3月31日）

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	岡崎　由美	文学学術院教授	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館規則第 9 条一号による委員 （文学学術院選出）
2	小松　　弘	文学学術院教授	
3	武田　　潔	文学学術院教授	
4	竹本　幹夫	文学学術院教授	
5	藤井慎太郎	文学学術院教授	
6	水谷　八也	文学学術院准教授	
7	八木　斉子	政治経済学術院准教授	第 9 条二号による委員 （第一号以外の学術院・学校選出）
8	上村　達男	法学学術院准教授	
9	寺沢みづほ	教育・総合科学学術院教授	
10	森本　栄晴	商学学術院教授	
11	熊　　遠報	理工学術院教授	
12	久塚　純一	社会科学総合学術院教授	
13	中村　　要	人間科学学術院准教授	
14	杉山　千鶴	スポーツ科学学術院教授	
15	三神　弘子	国際学術院教授	
16	加藤　　実	高等学院教諭	
17	吉田　　茂	本庄高等学院教諭	
18	伊沢　　久	芸術学校教授	
19	濱口　幸一	前川口芸術学校教授	
20	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	第 9 条三号による委員
21	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長	第 9 条四号による委員
22	児玉　竜一	坪内博士記念演劇博物館副館長	

■文化推進部 (文化企画課所管)

■會津八一記念博物館

1. 會津八一記念博物館協議員会

(1) 開催記録

第1回　5月20日　第2回　11月13日

(2) 委員

（2013年4月1日現在）

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	宗像　和重	政治経済学術院教授	第 10 条一号による委員 (学術院選出)
2	相澤　正己	法学学術院教授	
3	内田　啓一	文学学術院教授	
4	中嶋　　隆	教育・総合科学学術院教授	
5	晝間　文彦	商学学術院教授	
6	中島　啓幾	理工学術院教授	
7	島　　善高	社会科学総合学術院教授	
8	余語　琢磨	人間科学学術院教授	
9	志々田文明	スポーツ科学学術院教授	
10	平山　　廉	国際学術院教授	
11	大髙保二郎	文学学術院教授	第 10 条二号による委員 (館長推薦)
12	近藤　二郎	文学学術院教授	
13	丹尾　安典	文学学術院教授	
14	益田　朋幸	文学学術院教授	
15	成澤　勝嗣	文学学術院教授	
16	千葉　俊二	教育・総合科学学術院教授	
17	藪野　　健	理工学術院教授	
18	古谷　誠章	理工学術院教授	
19	内田　悦生	理工学術院教授	
20	佐藤　洋一	社会科学総合学術院教授	
21	浅井　京子	會津八一記念博物館特任教授	
22	飯島　昇藏	図書館長	第 10 条三号による委員
23	岡室美奈子	坪内博士記念演劇博物館館長	
24	松山　泰男	メディアネットワークセンター所長	
25	大日方純夫	大学史資料センター所長	
26	橋本　周司	常任理事 (学事統括、文化推進担当)	第 10 条四号による委員
27	大野　髙裕	教務部長	第 10 条五号による委員
28	十重田裕一	文化推進部長	
29	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	第 10 号六号による委員
30	川尻　秋生	會津八一記念博物館副館長	
31	尾崎　健夫	會津八一記念博物館事務長	第 10 号七号による委員

■大学史資料センター

1. 大学史資料センター運営委員会

(1) 開催記録

第1回　6月12日　　第2回　11月27日
第3回　2014年1月22日　　臨時　　5月30日

(2) 委員

（2014年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	藁谷　友紀	理事 (文化推進部門総括)	第 8 条一号による委員
2	堀　　真清	政治経済学術院教授	第 8 条二号による委員
3	吉田　　裕	法学学術院教授	
4	森田　貴子	文学学術院准教授	
5	湯川　次義	教育・総合科学学術院教授	
6	小倉　一哉	商学学術院准教授	
7	清宮　　理	理工学術院教授	
8	島　　善高	社会科学総合学術院教授	
9	加藤　茂生	人間科学学術院専任講師	
10	石井　昌幸	スポーツ科学学術院准教授	
11	天 児　　慧	国際学術院教授	
12	谷口　邦生	理事 (校友連携)・校友会常任幹事	第 8 条三号による委員
13	沖　　清 豪	文学学術院教授	第 8 条四号による委員
14	北河　賢三	教育・総合科学学術院教授	
15	大日方純夫	大学史資料センター所長	第 8 条五号による委員
16	大野　髙裕	教務部長	
17	飯島　昇藏	図書館長	
18	塚原　　史	會津八一記念博物館館長	
19	十重田裕一	文化推進部長	
20	横山　勝常	総務部長	
21	井上　裕一	大学史資料センター事務長	

2. 早稲田大学百五十年史編纂委員会

(1) 開催記録

第1回　9月24日　　第2回　12月3日

(2) 委員

（2014年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	藁谷　友紀	理事 (文化推進部門総括)	第 4 条一号による委員
2	田中　愛治	理事 (教務部門総括)	
3	守田　芳秋	理事 (総務部門総括)	
4	大日方純夫	大学史資料センター所長	第 4 条二号による委員
5	十重田裕一	文化推進部長	第 4 条三号による委員
6	恩藏　直人	広報室長・理事	
7	飯島　昇蔵	図書館長	
8	川口　　浩	政治経済学術院教授	第 4 条四号による委員
9	原田　俊彦	法学学術院教授	
10	真辺　将之	文学学術院准教授	
11	湯川　次義	教育・総合科学学術院教授	
12	横山　将義	商学学術院教授	
13	清宮　　理	理工学術院教授	
14	島　　善高	社会科学総合学術院教授	
15	余語　琢磨	人間科学学術院准教授	
16	志々田文明	スポーツ科学学術院教授	
17	鈴木　義昭	国際学術院教授	
18	浅古　　弘	大学院法務研究科教授	第 4 条五号による委員
19	沖　　清豪	文学学術院教授	

2013年度　統　計

■各機関の主管施設の利用状況

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
展示室名	演劇博物館（5号館）	會津八一記念博物館（2号館）	大隈記念室（2号館1階）	125記念室（26号館10階）
開館日数	276	245	283	143
入館者数	48,072	16,507	16,122	4,231

■各機関文化事業および教育活動の実績総数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
展覧会企画件数※1	9	9	4	1
展覧会来場者数	126,067	34,141	20,964	903
催し物件数 ※2	13	1	2	5
催し物来場者数(展覧会関連講座等人数含む)	4,246	43	4,842	6,731
各箇所設置および協力授業コマ数 ※3	3	2	1	-
各箇所設置および協力授業登録者人数	129	1,781	766	-
各箇所主催および協力課外活動実施数 ※4	47	140	4	4
各箇所主催および協力課外活動参加人数	1,183	3,171	2,910	1,586

■各機関学内外出品・協力件数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	文化企画課
各箇所出品・展示協力件数	14	7	5	2

※1 展覧会には常設展と企画展が含まれる。
※2 催し物は学内外での公演・講演会・（研究）公開講座とする。
※3 各箇所設置および協力授業コマ数は、各箇所が学内で設置している授業と各箇所からの講師派遣等、学部・大学院設置の授業などに協力している授業を示す。
※4 各箇所主催および協力による課外活動実施数は、見学授業・修学旅行等の課外授業見学者の受け入れの件数の他、学内外の生涯学習への協力（エクステンションや市民講座）、共催事業や地域交流事業の件数とし、参加人数は、上記定義に関連する事業に参加した人数とする。

■図書資料・AV資料の受け入れ状況

	和書	アジア圏図書（中国語・韓国語）	洋書	貴重書	AV資料	受入図書総計	寄贈資料点数（図書以外）
演劇博物館	1,545	120	889	722	4,420	7,696	24※
會津八一記念博物館	509	0	8	-	-	517	405
大学史資料センター	776	0	14	19	42	841	244

※寄贈資料点数は、図書以外の寄贈資料の点数の総計である。なお、演劇博物館の点数については、件数を示している。

2013年度　統　計

■2013年度　展覧会・催し物別　入場・参加人数

【 演劇博物館 】

種別	イベント名	開催日時・期間	開催場所	入場者数	詳細ページ
展覧会	「佐野碩と世界演劇―日本・ロシア・メキシコ“芸術は民衆のものだ”―展」	3月1日（金）～5月22日（水）	演劇博物館	11,883	14
	シンポジウム 「佐野碩、演劇で世界に勝負を挑む!～日本からロシア・欧州へ、そして北米・南米へ～」	3月1日（金）～3月3日（日）	小野記念講堂 8号館B101教室	523 （3日間総数）	14
展覧会	現代演劇シリーズ第41弾「大学路1980's－韓国現代演劇とソウル展」	3月1日（金）～8月4日（日）	演劇博物館	26,462	14
	演劇講座　リーディング公演「統一エクスプレス」 シンポジウム「韓国現代劇にとっての80年代と大学路」	7月9日（火）	小野記念講堂	178	15
展覧会	歌舞伎座新開場記念「六世中村歌右衛門展―思い出の名舞台」	3月25日（月）～4月25日（木）	演劇博物館	5,783	15
	演劇講座　「六世中村歌右衛門を語る」	4月12日（金）	大隈記念講堂小講堂	328	15
展覧会	早稲田大学芸術功労者顕彰記念「ドナルド・キーン展」	5月21日（火）～8月4日（日）	演劇博物館	14,967	16
	演劇講座　「文楽と近松―異国で出会う学問と芸術―」	7月17日（水）	大隈記念講堂大講堂	879	16
展覧会	アジア演劇仮面展―館蔵コレクション	6月7日（金）～8月4日（日）	演劇博物館	11,849	16
展覧会	「郡司正勝展」	7月1日（月）～2014年2月5日（水）	演劇博物館	27,982	17
展覧会	「豊竹山城少掾展」	9月21日（土）～12月21日（土）	演劇博物館	15,564	17
	演劇講座　「豊竹山城少掾を語る」	12月16日（月）	大隈記念講堂小講堂	316	17
展覧会	「新耽奇会展―奇想天外コレクション」	10月15日（火）～11月30日（土）	演劇博物館	9,428	18
	演劇講座　「曲亭馬琴、大沼枕山、三村竹清―近世、近代の好事家たちの集い」	11月11日（月）	大隈記念講堂小講堂	327	18
展覧会	「いまだ知られざる寺山修司―わが時、その始まり」展	11月26日（火）～2014年1月25日（土）	125記念室	2,149	18
	演劇講座　「いまだ知られざる寺山修司―ドキュメンタリーとフィクションのはざまから」	10月27日（日）	大隈記念講堂大講堂	784	19
	演劇講座　鼎談「テラヤマシュージ・リローデッド!」	12月11日（水）	小野記念講堂	213	19
	演劇講座　「ギャラリートーク」	12月3日（火）・12日（木）	125記念室	163（2回総数）	19
	演劇講座　学生によるリーディング公演「毛皮のマリー」	12月19日（木）	125記念室	68	20
催し物	シェイクスピア祭 2013　「太平洋に捧げるシェイクスピア」	4月24日（水）	6号館318教室	89	20
催し物	第76回逍遙祭　「坪内ミキ子氏に聞く～坪内逍遙・坪内士行・宝塚歌劇～」	5月21日（火）	小野記念講堂	189	20

【 會津博物館 】

種別	イベント名	開催日時・期間	開催場所	入場者数	詳細ページ
展覧会	「動物たち」展	3月1日（金）～4月20日（土）	會津博物館	1,952	21
展覧会	「近世の禅画」展	5月7日（火）～6月29日（土）	會津博物館	2,614	21
展覧会	「紙にうつされた雲岡石窟　―小川晴暘の雲岡石窟拓本―」	5月13日（月）～6月19日（火）	會津博物館	2,530	21
展覧会	「花岡萬舟　戦争画の相貌Ⅱ」展	5月20日（月）～7月6日（土）	會津博物館	3,964	22
展覧会	「青いやきもの」展	7月5日（金）～9月21日（土）	會津博物館内富岡重憲コレクション展示室	2,508	22
展覧会	「池部政次コレクションの中国明清の書画」	9月24日（月）～11月9日（土）	會津博物館	3,785	22
展覧会	「折帖」展	9月30日（月）～11月16日（土）	會津博物館内富岡重憲コレクション展示室	1,936	23
展覧会	「戸ノ内貝塚発掘調査成果報告」展	11月15日（金）～2014年1月17日（土）	會津博物館	2,663	23
展覧会	「つちもの　縄文時代から江戸時代まで」展	11月25日（月）～2014年2月1日（土）	會津博物館内富岡重憲コレクション展示室	1,832	23
シンポジウム	「四次元との対話―縄文と現代をつなぐもの―」	10月26日（土）	小野記念講堂	70	24

【 大学史資料センター 】

種別	イベント名	開催日時・期間	開催場所	入場者数	詳細ページ
展覧会	「ペンから剣へ―学徒出陣70年―」	3月25日（月）～4月27日（土）	企画展示室	3,523	24
展覧会	「2012年度 受贈資料展―資料が映す早稲田の今昔」	6月21日（金）～8月4日（日）	125記念室	687	24
展覧会	『教旨制定 100年―「大正デモクラシー」期の早稲田』	10月8日（火）～11月4日（月）	125記念室	492	25
展覧会・講演	師走の東伏見芸術祭	12月8日（日）	東伏見 STEP22	240	25
講演	「ペンから剣へ―学徒出陣70年―」展講演会	5月20日（月）	大隈記念講堂小講堂	329	25

【 文化企画課 】

種別	イベント名	開催日時・期間	開催場所	入場者数	詳細ページ
展覧会	「岡本一平」展	4月12日（金）～5月31日（金）	125記念室	903	26
公演	早稲田狂言の夕べ 2013	5月7日（火）～6月29日（土）	大隈記念講堂大講堂	811	26
公演	早稲田学生文化・芸術祭 2013	6月3日（月）～6月16日（日）	大隈記念講堂 小野記念講堂	約5,000	28
公演	早稲田文化芸術週間 2013	10月14日（月）～10月30日（水）	大隈記念講堂 小野記念講堂他	1,761	29
公演	多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ	11月14日（木）～11月15日（金）	小野記念講堂	299	26
公演	東京国際文芸フェスティバル	2014年3月2日（日）・9日（日）	小野記念講堂	330	27